広島商船高等専門学校	一般教科	開講年度	令和04年度 (2022年度)

学科到達目標

人文・社会・自然科学の基礎知識を修得し、人間力・規範意識および広い視野・素養を身につけて地域や国際社会で活躍できる人を目指す。
（1）保健・体育、芸術や社会科学の科目を学び、豊かな心・規範意識や人間力を養い、他者や社会の多様な状況を理解できる知識を身につける。
（2）国語や英語の科目を学び、地域や国際社会で活躍するための理解力やコミュニケーション基礎力を身につける。
（3）数学、物理や化学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																		担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	現代文Ⅰ	1911001	履修単位	2	2		2																		朝倉 和	
一般	必修	古典Ⅰ	1911002	履修単位	1			2																		朝倉 和	
一般	必修	地理	1911003	履修単位	2	2		2																		澤田 大吾	
一般	必修	歴史	1911004	履修単位	2	2		2																		小河 浩	
一般	必修	政治経済	1911005	履修単位	2	2		2																		澤田 大吾	
一般	必修	数学ⅠA	1911006	履修単位	2	2		2																		平井 剛和	
一般	必修	数学ⅠB	1911007	履修単位	2	2		2																		菅田 慶	
一般	必修	数学ⅠC	1911008	履修単位	2	2		2																		菅田 慶,平井 剛和	
一般	必修	物理	1911009	履修単位	1			2																		藤原 滋泰	
一般	必修	理科総合	1911010	履修単位	2	2		2																		大沼 みお	
一般	必修	芸術	1911011	履修単位	1	2																				澤田 大吾,菅田 慶	
一般	必修	総合英語Ⅰ	1911012	履修単位	4	4		4																		上杉 鉛一	
一般	必修	英語表現Ⅰ	1911013	履修単位	2	2		2																		下田 旭美	
一般	必修	保健体育Ⅰ	1911014	履修単位	2	2		2																		橋本 真	
一般	必修	基礎実習	1911015	履修単位	2	2		2																		菅田 慶,川崎 雄貴	
一般	必修	現代文Ⅱ	1921001	履修単位	2					2		2														朝倉 和	
一般	必修	古典Ⅱ	1921002	履修単位	1					2																朝倉 和	
一般	必修	歴史	1921003	履修単位	2					2		2														小河 浩	
一般	必修	数学ⅡA	1921004	履修単位	2					2		2														川崎 雄貴	
一般	必修	数学ⅡB	1921005	履修単位	2					2		2														菅田 慶	
一般	必修	数学ⅡC	1921006	履修単位	2					2		2														川崎 雄貴	
一般	必修	物理	1921007	履修単位	2					2		2														藤原 滋泰	
一般	必修	理科総合	1921008	履修単位	2					2		2														大沼 みお	
一般	必修	総合英語Ⅱ	1921009	履修単位	4					4		4														藤沢 徹也	
一般	必修	英語表現Ⅱ	1921010	履修単位	2					2		2														池田 幸恵	
一般	必修	保健体育Ⅱ	1921011	履修単位	2					2		2														柴山 慧	
一般	必修	国語I	1931001	履修単位	2									2		2										朝倉 和	
一般	必修	数学IIIA	1931002	履修単位	2									2												濵田 朋起,川崎 雄貴,石橋 和葵	

一般	必修	数学IIIB	1931003	履修単位	2										2									濵田 朋起,川崎 雄貴,石橋 和葵	
一般	必修	物理（M3）	1931004	履修単位	2									2	2									藤原 滋泰	
一般	必修	物理（C3）	1931005	履修単位	3									3	3									藤原 滋泰	
一般	必修	物理（D3）	1931006	履修単位	1									2										藤原 滋泰	
一般	必修	理科総合（M3）	1931007	履修単位	1										2									大沼 みお	
一般	必修	理科総合（D3）	1931008	履修単位	2									2	2									大沼 みお	
一般	必修	総合英語III	1931009	履修単位	3									3	3									上杉 鉛一,池田 幸恵	
一般	必修	英語表現III	1931010	履修単位	2									2	2									下田 旭美	
一般	必修	体育・スポーツⅠ	1931011	履修単位	2									2	2									柴山 慧	
一般	必修	国語Ⅱ	1941001	履修単位	1												2							朝倉 和	
一般	必修	社会特論（M）	1941002	履修単位	1												2							澤田 大吾	
一般	必修	社会特論（C・D）	1941003	履修単位	1													2						澤田 大吾	
一般	必修	発展英語Ⅰ（M）	1941004	履修単位	2												4							下田 旭美,池田 幸恵	
一般	必修	発展英語Ⅰ（C・D）	1941006	履修単位	2												2	2						藤沢 徹也	
一般	必修	体育・スポーツⅡ（M）	1941007	履修単位	1												2							橋本 真	
一般	必修	体育・スポーツⅡ（C・D）	1941008	履修単位	2												2	2						橋本 真	
一般	必修	社会特論（M・C）	0050	履修単位	2																2	2		小河 浩	
一般	必修	文学と思想	1951001	履修単位	1																	2		朝倉 和	
一般	必修	社会特論（D）	1951002	履修単位	2																2	2		澤田 大吾	
一般	必修	発展英語Ⅱ（M）	1951003	学修単位	2																1	1		藤沢 徹也	
一般	必修	発展英語Ⅱ（C）	1951004	学修単位	2																1	1		下田 旭美	
一般	必修	発展英語Ⅱ（D）	1951005	学修単位	2																1	1		池田 幸恵	
一般	必修	体育・スポーツⅢ（M）	1951006	履修単位	2																2	2		橋本 真,柴山 慧	
一般	必修	体育・スポーツⅢ（C・D）	1951007	履修単位	1																	2		柴山 慧,橋本 真	

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	現代文Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『探求　現代の国語』（桐原書店）、『常用漢字　ダブルクリア　四訂版』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
(2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すことができる。
(3)文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。
(4)文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。
(5)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができない。
評価項目2	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増すことができる。	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すことができる。	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すことができない。
評価項目3	幅広く文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わったり、その効果について説明できない。
評価項目4	難解な文章でも客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	基本的な文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	文章を客観的に理解することや、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができない。
評価項目5	自ら進んで、読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文（評論、小説、詩等）や表現単元を通して、内容を文章に即して理解し、相手に自己を表現できるようになることを、目標とする。われわれ人間と「ことば」とは、決して切り離せないものである。事実、相手との意思疎通、知識・技術の獲得と提供、自身の思考、いわゆる「コミュニケーション」と言われる活動のいずれも、「ことば」を用いないものはない。そして、これら「コミュニケーション」活動はすべて、「理解」と「表現」とを土台としている。評論や小説、詩、俳句、随想といったさまざまな「表現」に触れ、その内容を適切に「理解」すること。また、相手に「理解」されやすい「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を養い、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。
授業の進め方・方法	（1）随時、読書タイムをとったり、漢字小テストを行う。 （2）読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 （3）ノートの取り方や予復習、授業の進め方、試験対策等についてはガイダンスにおいて説明する。
注意点	（1）板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語事典、漢和辞典を持参することが望ましい。 （2）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1 随想 最果タヒ「わからないぐらいがちょうどいい」	1-(1) 「随想」が「評論」的性格と「小説」的性格とを有していることが理解できる。 1-(2) 作者の物の見方・考え方・感じ方を理解できる。 1-(3) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	2 評論 原研哉「マヨネーズの穴から」、大井玄「環境世界」	2-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 2-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 2-(3) 主要な見解をつかむ。対比構造に着目する。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上

		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3 小説 川上弘美「神様」	3-(1) 登場人物の心情の変化を追いつつ、作品のテーマを押さえることができる。 3-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	4 評論 中村桂子「紫外線」、川田順造「人類学から見た言語」	4-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 4-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 4-(3) 具体例の働きをつかむ。見解の根拠をつかむ。
		15週	同上	同上
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	5 評論 高田明典「言葉を学ぶとは――『言語ゲーム』の概念」	5-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 5-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	6 小説 山本文緒「庭」	6-(1) 登場人物の心情の変化を追いつつ、作品のテーマを押さえることができる。 6-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	7 短歌・俳句 高柳重信など	7-(1) 語句に注目して情景を捉える。 7-(2) 様々な表現技法について理解する。 7-(3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	8 評論 與那覇潤「グローバル化と「文脈」」、内山節「ゆらぎ」等	8-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 8-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 8-(3) 接続表現。指示表現。効果的な表現。キーフレーズ。
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	古典Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	『探求　言語文化』（桐原書店）、『古典文法クリアノート』（尚文出版）。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。
(2)古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。
(3)代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。
(4)教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	幅広く古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	基礎的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。
評価項目2	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができ、それを踏まえた音読・朗読ができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができない。
評価項目3	幅広い古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	基礎的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。また、それらに親しもうとすることができない。
評価項目4	教材として取り上げた作品以外についても、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	古文・漢文の基礎知識を押さえることからスタートする。その後、短めの古文と漢文を読解することにより、日本文化や中国文化の源流を探り、現在の国際社会に対応できる広い視野と素養を養成する。また、我が国や中国の古人独特の物の見方、考え方、感じ方の理解に努めることによって、コミュニケーション基礎力を養成する。
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。
注意点	（1）随時、古典文法や、漢文の訓読に関する小テストを行う。 （2）ノートの取り方は事前に指導するので、毎回、授業範囲分の教科書の本文を写してくること。 （3）電子辞書や古語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。 （4）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	1. 古文の基礎	(1) 五十音図といろは歌 を理解できる。 (2) 歴史的仮名遣いと発音 が理解できる。 (3) ことばの単位と品詞、品詞分解・自立語・付属語 が理解できる。 (4) 活用と活用形のはたらき、動詞の活用の種類の見分け方 が理解できる。 (5) 変格活用（カ変・サ変・ナ変・ラ変）・上一段活用・下一段活用 を理解できる。 (6) 四段活用・上二段活用・下二段活用 を理解できる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	2. 「検非違使忠明のこと」（宇治拾遺物語）	(1) 歴史的仮名遣いに注意しながら発音する。 (2) 古文の特徴に注意しながら読解する。重要単語・文法事項を注意する。 (3) 場面に応じた登場人物の心情を把握する。 (4) 口語訳を通じて、我が国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知る。
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上

		8週	前期中間試験 試験返却・解説	
	4thQ	9週	3. 漢文の基礎	(1) 訓読に親しむⅠ―送り仮名と句読点、返り点、訓点と 書き下し文 を理解できる。 (2) 訓読に親しむⅡ―再読文字と助字 を理解できる。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	4. 「知音」（呂氏春秋）、「朝三暮四」（列子）等	(1) 書き下し文を正しく書くことによって、漢文に慣れることができる。 (2) 口語訳を通じて、中国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知ることができる。 (3) 故事成語の由来を理解することができる。 (4) ビデオ鑑賞（故事成語）
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	前期期末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地理

科目基礎情報

科目番号	1911003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『地理Ａ』(東京書籍)、『新高等地図』(東京書籍)		
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

(1)世界の地形とその特徴について理解できる。
(2)各気候の特徴と人々の生活の関係について理解できる。
(3)人間と文化の関係について理解できる。
(4)世界各地の生活や文化を理解することができる。
(5)国内外で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	世界の地形とその特徴についての発展的な知識を理解することができる。	世界の地形とその特徴についての基本的な知識を理解することができる。	世界の地形とその特徴についての基本的な知識を理解することができない。
評価項目2	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解し、比較することができる。	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解することができる。	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解することができない。
評価項目3	人間と文化の関係についての発展的な知識を理解することができる。	人間と文化の関係についての基本的な知識を理解することができる。	人間と文化の関係についての基本的な知識を理解することができない。
評価項目4	世界各地の様々な生活や文化を理解し、比較することができる。	世界各地の様々な生活や文化を個々に理解することができる。	世界各地の様々な生活や文化を個々に理解することができない。
評価項目5	国内外や地域で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解し、主体的に考えることができる。	国内外や地域で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解することができる。	国内外や地域で起こる多様な事象と学習内容を結び付けることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)地理の科目を学ぶことで、その視点から人間、社会、文化、地域について理解できる授業を行う。 (2)地理に関する基本的な知識及び考え方を学ぶ。 (3)世界各地の生活や文化を学ぶ。 (4)国内外で起こる多様な事象について学ぶ。 (5)2～5年次の発展的な社会系科目の学習に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	講義とレポート課題。地理Aワークノートを完成させる。
注意点	(1)シラバスの項目・内容を確認して、教科書等で予習をしておくこと。 (2)世界情勢の動きに対応して、若干の授業内容の変更があり得る。新聞やニュースなどの報道について留意することが望ましい。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス ウクライナ問題について	ガイダンス ウクライナ問題を理解する。
		2週	第1章　現代世界の特徴と動向 1.　地球儀や地図からとらえる世界	1-(1)　地球儀と地図について理解する。 1-(2)　時差について理解し、時差計算ができる。
		3週	1.地球儀や地図からとらえる世界 2.結びつく現代社会（１）	1-(3)　国家の三要素と国境について理解する。 2-(1)　３つの世界と三極世界へ
		4週	2.結びつく現代社会（２） 3.貿易で結びつく世界	2-(2)　経済的結びつき　ASEAN　OPECとOAPECを考える 3.　産業構造の変化を理解する
		5週	4.交通・通信の発達と世界の一体化 5.観光を軸とした国際的依な人々の移動	ケネディー大統領の時代を理解する。
		6週	中間試験	
		7週	返却と解答　　第２編　第1章　世界の生活・文化の多様性 1　世界的視野から見た自然環境と文化(1)	1.生活の舞台としての地形 2.
		8週	2.　世界的視野から見た自然環境と文化(2)	１熱帯の特徴と人々の生活について理解する。 ２乾燥帯の特徴と人々の生活について理解する。
	2ndQ	9週	3.　世界的視野から見た自然環境と文化(3)	３　温帯帯の特徴と人々の生活について理解する。 ４　冷帯の特徴と人々の生活について理解する。
		10週	4.　世界的視野から見た自然環境と文化(4)	5.　鉱山機構の特徴と人々の生活を理解する。
		11週	5.　世界的視野から見た自然環境と文化(5)	生活基盤としての産業
		12週	第2章　1.諸地域の生活・文化と環境	1.東アジアの生活・文化・環境を理解する。
		13週	2.諸地域の生活・文化と環境	２．東アジアの生活・文化・環境を理解する。
		14週	3.諸地域の生活・文化と環境	3.　南アジアの生活・文化・環境を理解する。
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	夏休みの宿題・課題の説明
後期	3rdQ	1週	4.　諸地域の生活・文化と環境	4.　西アジアの生活・文化・環境を理解する。
		2週	5.　諸地域の生活・文化と環境	5.　北アフリカの生活・文化・環境を理解する。
		3週	6.　諸地域の生活・文化と環境	6.　サハラ砂漠以南のアフリカの生活・文化・環境を理解する。
		4週	7.　諸地域の生活・文化と環境	7.　ヨーロッパの生活・文化・環境を理解する。(1)
		5週	8.　諸地域の生活・文化と環境	8.　ヨーロッパの生活・文化・環境を理解する。(2)
		6週	9.　諸地域の生活・文化と環境	9.　ロシアの生活・文化・環境を理解する。
		7週	10.諸地域の生活・文化と環境	10.　北アメリカの生活・文化・環境を理解する。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	11　諸地域の生活・文化と環境	11. 北・南アメリカの生活・文化・環境を理解する。
		10週	12. 諸地域の生活・文化と環境	12.オセアニアの生活・文化・環境を理解する。
		11週	第3編　深刻化する地域的課題とその解決策 1.　地図で読み解く地球的課題	1.世界の資源・エネルギー問題について理解できる。
		12週	2.　地図で読み解く地球的課題	2.　世界の人口問題を理解する。 3.　世界の食料問題を理解する。
		13週	3.　地図で読み解く地球的課題	4.　世界の都市問題について理解する。
		14週	4.　地図で読み解く地球的課題	5.　世界の環境問題を理解する。
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	歴史

科目基礎情報

科目番号	1911004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	現代の歴史総合 (山川出版社、2021年)		
担当教員	小河 浩		

到達目標

(1)主に近現代史について、歴史総合で高等学校履修程度の内容が理解できる。詳細な内容は以下の通りである。
(2)近代化と我々について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。
(3)国際秩序の変化や大衆化について高等学校履修程度の内容を理解して、社会活動に応用できる。
(4)上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な内容を理解して、社会活動に応用できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	近代における世界と日本の開国などについて、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。	近代における世界と日本の開国などについて、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。	近代における世界と日本の開国などについて、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目2	国民国家の成立と明治維新について、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。	国民国家の成立と明治維新について、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。	国民国家の成立と明治維新について、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目3	第一次世界大戦頃の総力戦と社会運動について、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。	第一次世界大戦頃の総力戦と社会運動について、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。	第一次世界大戦頃の総力戦と社会運動について、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目4	経済危機と第二次世界大戦について、基礎的な用語を理解できて、内容を社会活動に応用できる。	経済危機と第二次世界大戦について、基礎的な用語を理解できて、社会活動に関心を向けられる。	経済危機と第二次世界大戦について、基礎的な用語を理解できず、社会活動にも応用できない。
評価項目5	上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄を理解できて、内容を社会活動に応用できる。	上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄を理解できて、社会活動に関心を向けられる。	上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄を理解できず、社会活動にも応用できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)主に近現代史について、歴史総合で高等学校履修程度の内容できが理解る。詳細な内容は以下の通りである。 (2)近代化と我々について高等学校履修程度の内容を理解できて、内容を社会活動に応用できる。 (3)国際秩序の変化や大衆化について高等学校履修程度の内容を理解できて、内容を社会活動に応用できる。 (4)上記の時代にあたる日本および地域史について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
授業の進め方・方法	1年の歴史では、近現代史について、18世紀あたりの世界情勢と日本の開国、第一次世界大戦から第二次世界大戦ころの歴史について学習する。グローバル化した世界の展開を理解するのは、語学ばかりでなく、世界の歴史や文化についての幅広い知識が必要である。本学年では、近代以降の歴史・文化的基盤となるより古い段階の日本を含む歴史も必要に応じて取り入れながら、世界史を主に講義形式で総合的に学ぶ。
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.18世紀東アジアにおける社会と経済	ガイダンス 1. 18世紀の日本を含む東アジア経済と社会について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		2週	2. 貿易とつながる世界と日本	2. 18世紀のアジア圏でのヨーロッパなどとの貿易関係について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		3週	3. 産業革命1	3. イギリスを中心とする第一次産業革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		4週	3. 産業革命2	3. 第二次産業革命や各種の技術革新について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		5週	4. 中国の開港と日本の開国1	4. アヘン戦争や幕末の日本について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		6週	5. 市民革命1	5. アメリカの独立革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		7週	前期中間試験	中間試験
		8週	5. 市民革命2	答案返却・解説 5. フランス革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
	2ndQ	9週	6. 国民国家とナショナリズム	6. フランス革命の影響、アメリカの発展、末期オスマン帝国について理解できて、内容を社会活動に応用できる。

		10週	7. 明治維新1	7. 幕末の日本と明治維新について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		11週	7. 明治維新2	7. 立憲国家成立や文明開化について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		12週	8. 日本の産業革命	8. 明治期日本の殖産興業などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		13週	9. 帝国主義1	9. 欧米列強による西アジア方面での帝国主義的進出ついて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		14週	9. 帝国主義2	9. 欧米列強による東南アジア方面での帝国主義的進出ついて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		15週	10. 変容する東アジアの国際秩序1	10. アジアでの国境や領土の変遷などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		16週	前期末試験	前期末試験
後期	3rdQ	1週	10. 変容する東アジアの国際秩序2	答案返却と解説 10. 朝鮮の開国や近代化、日清戦争などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		2週	11. 日露戦争と東アジアの変動1	11. 末期清朝についての混乱や日露戦争などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		3週	11. 日露戦争と東アジアの変動2	11. 辛亥革命について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		4週	12. 近代化と現代的な諸課題	12. 近代化に伴う様々な諸問題について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		5週	13. 第一次世界大戦の展開1	13. 第一次世界大戦の展開について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		6週	13. 第一次世界大戦の展開2	13. 第一次世界大戦の展開について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		7週	14. ソ連成立とアメリカの台頭1	14. ロシア帝国の終焉とソヴィエト政権の成立について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		8週	14. ソ連成立とアメリカの台頭2	15. アメリカ合衆国の台頭について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
	4thQ	9週	15. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	15. ヴェルサイユ条約やワシントン体制での軍縮について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		10週	16. 世界経済の変容と日本	16. 第一次世界大戦頃の世界経済と日本について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		11週	後期中間試験	後期中間試験
		12週	17. アジアのナショナリズム	答案返却と解説 17. アジア世界でのナショナリズムの勃興について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		13週	18. 大衆の政治参加	18. 欧米や日本での大衆の政治参加について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		14週	19. 消費社会と大衆文化	19. 大衆と消費社会や文化などについて理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		15週	20. 世界恐慌の時代から第二次世界大戦	20. 世界恐慌の仕組みと、第二次大戦の展開について理解できて、内容を社会活動に応用できる。
		16週	学年末試験	学年末試験、答案返却と解説

評価割合

	試験と後期中間課題	グループ発表	相互評価	授業態度	ポートフォリオ		合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	政治経済

科目基礎情報

科目番号	1911005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	政治・経済 (東京書籍)		
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

(1)日本の政治経済の基本事項を理解する。
(2)日本国憲法を理解し、民主政治の諸問題を主体的に解決できるようにする。
(3)日々起こる出来事を主体的に理解し分析する力を得る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	政治経済の諸問題を理解し主体的な行動がとれる	政治経済の諸問題を理解できる	政治経済の諸問題を理解できない
評価項目2	憲法を理解して民主社会の一員として主体的の行動できる	憲法が理解できる	憲法が理解できない
評価項目3	日々のニュースが理解できる（ニュース検定準２級以上がとれる）	日々のニュースがわかる（ニュース検定3級以上がとれる）	日々のニュースが理解できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	日本のみならず世界の政治・経済・文化など様々な知識を習得し、多様な価値観を理解する。前期では、民主政治の基本原理と日本国憲法の基本原理を学習する。後期では、日本の政治機構そして国際政治について学び、戦後の日本政治経済史を統括する。またニュース検定本を副テキストとして採用し、現代のリアルな時事問題を理解する。また地域経済の具体化として大崎上島についての経済を学習する。
授業の進め方・方法	1)授業は検定教科書を中心に講義方式で行う (2)ニュース検定の副教材も常に準備しておく (3)11月のニュース検定を受験し合格を目指す (4)夏休みの課題として「税に関する作文」の提出を目指す
注意点	1年間を通してノート作成をする作業を身につける。また学習した内容をアウトプットする機会としてニュース検定を受講することを進める。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	民主政治の基本原理	ガイダンスと民主政治の成立を理解する
		2週	民主政治の基本原理	法の支配を理解する
		3週	民主政治の基本原理	基本的人権の確立を理解する
		4週	民主政治の基本原理	現代の民主政治を理解する
		5週	民主政治の基本原理	現代の民主政治を理解する
		6週	中間テストとテスト返却	これまでのまとめ
		7週	日本国憲法の基本原理	明治憲法の制定を理解する
		8週	日本国憲法の基本原理	明治憲法の内容を理解する
	2ndQ	9週	日本国憲法の基本原理	日本国憲法制定を理解する
		10週	日本国憲法の基本原理	基本的人権の保障を理解する
		11週	日本国憲法の基本原理	平和主義を理解する
		12週	日本国憲法の基本原理	精神の自由と判例
		13週	日本国憲法の基本原理	学問の自由・表現の自由と判例
		14週	日本国憲法の基本原理	信教の自由と判例
		15週	前期末試験と返却	経済的自由と判例
		16週	後期にむけて	前期のまとめと後期での取り組み
後期	3rdQ	1週	日本国憲法の基本原理	夏休み課題テストと前期のまとめ
		2週	日本国憲法の基本原理	社会権と判例
		3週	日本国憲法の基本原理	自衛隊の成立過程
		4週	日本国憲法の基本原理	自衛隊と憲法9条（判例）
		5週	日本の政治機構	国会と立法を理解する
		6週	日本の政治機構	内閣と行政を理解する
		7週	中間テストと返却	これまでのまとめ
		8週	日本の政治機構	裁判所と司法を理解する
	4thQ	9週	現代の国際政治	国際関係と国際法を理解する
		10週	現代の国際政治	国際社会の組織化と変容を理解する
		11週	現代の国際政治	国際政治の動向と課題を理解する
		12週	戦後日本政治経済史	終戦から朝鮮戦争まで
		13週	戦後日本政治経済史	高度経済成長期からオイルショックまで

		14週	戦後日本政治経済史	バブル経済まで
		15週	戦後日本政治経済史	現代政治の問題点と総まとめ
		16週	学年末試験と返却	試験の返却

評価割合

							合計
総合評価割合	180	30	30	30	0	30	300
基礎の能力	60	10	10	10	0	10	100
ゴールの能力	60	10	10	10	0	10	100
部門を横断する能力	60	10	10	10	0	10	100

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	数学ＩＢ

科目基礎情報

科目番号	1911007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）		
担当教員	菅田 慶		

到達目標

(1) 順列・組合せの総数の求め方を理解し、それらを利用して様々な場合の数を求めることができる。
(2) いろいろな方程式・不等式の意味を理解し、解を導くことができる。
(3) 数列の概念を理解し、いろいろな数列の計算ができる。
(4) 三角比の意味を理解し、三角形の辺の長さや角の大きさ、面積を求めることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	場合の数、順列、組合せの複雑な計算ができ、説明できる。	場合の数、順列、組合せの基本的な計算ができる。	場合の数、順列、組合せの計算ができない。
評価項目2	いろいろな方程式・不等式の意味を理解し、複雑な3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができる。	いろいろな方程式・不等式の意味を理解し、基本的な3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができる。	いろいろな方程式・不等式の意味が理解できない。または、基本的な3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができない。
評価項目3	三角比を理解し、定理・公式を利用して問題が解ける。	三角比を用いた基本的な計算ができる。	三角比の値を求めることができない。
評価項目4	三角関数を理解し、複雑なグラフが描ける。また、複雑な三角方程式・三角不等式が解ける。	三角関数を理解し、基本的なグラフが描ける。また、基本的な三角方程式・三角不等式が解ける。	三角関数の基本的なグラフが描けない。または、基本的な三角方程式・三角不等式が解けない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 中学校で学んでいない初めての単元「場合の数」を学習する。 (3) 専門分野の様々な問題の分析に必要な、いろいろな方程式・不等式の解法を身につける。 (4) 三角比の意味と図形の計量を学び、三角関数の基礎を学習する。 (5) 中学校で学習した内容をさらに深め、2年次、3年次の数学、専門科目の学習に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解している。
		2週	場合の数	順列の基本的な計算ができる。
		3週	場合の数	順列、重複順列の問題が解ける。
		4週	場合の数	組合せの基本的な計算ができる。
		5週	場合の数	組合せの問題が解ける。
		6週	場合の数	同じものを含む順列、円順列の問題が解ける。
		7週	前期中間試験・答案返却・解説	
		8週	連立方程式	基本的な3元１次連立方程式、
	2ndQ	9週	その他の方程式	絶対値記号や根号を含む方程式が解ける。
		10週	恒等式	恒等式の意味を理解し、問題が解ける。
		11週	1次不等式	1次不等式を解くことができ、簡単な文章題が解ける。
		12週	連立不等式	連立不等式を解くことができ、簡単な文章題が解ける。
		13週	2次不等式	基本的な２次不等式が解ける。
		14週	集合	集合の概念を理解している。
		15週	命題	命題の概念を理解している。
		16週	前期末試験・答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	三角比	三角比の値を求めることができる。
		2週	三角比	三角比を利用して、文章問題が解ける。
		3週	三角比	鈍角の三角比の値を求めることができる。
		4週	三角比	三角比の相互関係を理解でき、それを利用できる。
		5週	三角比	正弦定理を理解し、それを利用できる。
		6週	三角比	余弦定理を理解し、それを利用できる。
		7週	三角比	正弦定理・余弦定理の応用問題が解ける。
		8週	三角比	公式を利用し、三角形の面積を求めることができる。

	4thQ	9週	後期中間試験・答案返却・解説	
		10週	三角関数	一般角を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。
		11週	三角関数	孤度法を理解し、角を弧度法で表現することができる。
		12週	三角関数	基本的な三角関数のグラフが描ける。
		13週	三角関数	グラフの拡大・縮小を理解し、複雑な三角関数のグラフが描ける。
		14週	三角関数	三角方程式が解ける。
		15週	三角関数	三角不等式が解ける。
		16週	学年末試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	授業態度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	物理

科目基礎情報

科目番号	1911009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」　高木堅志郎、植松恒夫編　（啓林館）、「物理」　高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」　藤原滋泰　（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）／参考図書：「機械系の運動と振動の基礎・基本」　瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰　（海文堂）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 物理の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。
(2) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。
(3) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	等加速度直線運動についての公式や計算式を導出することができる。複雑な問題に対しても、v-tグラフやx-tグラフなどを活用した計算ができる。	平均の速度と瞬間の速度、相対速度、加速度、等加速度直線運動、加速度が負の運動、自由落下、鉛直投げ下ろし、鉛直投げ上げについての基本的な計算ができる。	速度、加速度、変位の基本的な概念を理解しておらず、自由落下や鉛直投げおろしについての基本的な計算が出来ない。
評価項目2	力の概念と各法則について理解しており、複雑な合成や分解の計算結果を運動方程式に正しく代入し、計算することも出来る。	力の種類と単位、フックの法則、力の合成と分解、力の成分、力の釣り合い、作用･反作用の法則、慣性の法則、運動の法則について説明でき、運動方程式を解ける。	力についての基本的な概念を説明できず、力についての法則も理解出来ない。運動方程式を立てることも出来ない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 物理の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。 (3) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	0.測定値の処理と有効数字	0-(1)測定値の処理と有効数字の取り扱いが出来るようになる。
		2週	1.速度・加速度・変位	1-(1) 平均の速度と瞬間の速度を求めることが出来る。
		3週	1.速度・加速度・変位	1-(2) 相対速度を求めることが出来る。
		4週	1.速度・加速度・変位	1-(3)　加速度、加速度が負の運動についての計算ができる。
		5週	1.速度・加速度・変位	1-(4)　等加速度直線運動についての計算ができる。
		6週	1.速度・加速度・変位	1-(5) 自由落下、鉛直投げ下ろしについての問題が解ける。
		7週	1.速度・加速度・変位	1-(6) 鉛直投げ上げについての問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	1.速度・加速度・変位	1-(7) 水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。
		10週	2.力	2-(1) 力の３要素、力の種類と単位について何も見ないで説明できる。

		11週	2.力	2-(2) フックの法則を用いて、弾性力を求めることが出来る。
		12週	2.力	2-(3) 力の合成と分解、力の成分の和についての問題が解ける。
		13週	2.力	2-(4) 作用･反作用の法則についての問題が解ける。
		14週	3.運動の法則	3-(1) 慣性の法則、運動の法則について説明でき、問題を解くことができる。
		15週	3.運動の法則	3-(2) 運動方程式、重力と質量、単位と次元について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	理科総合

科目基礎情報

科目番号	1911010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	化学基礎（啓林館）、生物基礎（啓林館）、化学基礎の基本マスター		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

(1) 様々な身の回りの物質の性質や用途などに関する知識を習得する。
(2) 物質の構造と性質に関する知識を習得し、応用できる。
(3) 化学結合に関する知識を習得し、説明できる。
(4) 物質量について理解し、応用できる。
(5) 地球上の生物の多様性と共通する性質について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 化学の特徴	化学が物質を対象とする学問であり，人間生活に重要な役割を果たしていることを理解し、説明できる。 観察，実験などを通して物質を探究する方法が身に付いている。	化学が物質を対象とする学問であり，人間生活に重要な役割を果たしていることを理解している。 テキストなどを見ながら、観察，実験などを通して物質を探究することができる。	化学が物質を対象とする学問であり，人間生活に重要な役割を果たしていることを理解していない。 観察，実験などを通して物質を探究する方法が身に付いていない。
評価項目2 物質の構造と性質	物質の構造と性質を理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質の構造を理解し、標準的な問題を解くことができる。	物質の構造を理解していない。
評価項目3 化学結合	化学結合について理解し、発展的な問題を解くことができる。	化学結合について理解し、標準的な問題を解くことができる。	化学結合について理解していない。
評価項目4 物質量	物質量について理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質量について理解し、標準的な計算問題を解くことができる。	物質量について理解していない。
評価項目5 生物：生物の多様性と共通性、生体内のエネルギー	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解している。	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	化学：日常生活や社会と関連付けながら、物質の構造や化学変化に関する知識と考え方を習得する。 生物：様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	化学の特徴	化学と人間生活の関わりについて関心を高め，化学が物質を対象とする学問であり，人間生活に重要な役割を果たしていることを理解する。 観察，実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身につける。
		2週	物質の探究	純物質と混合物の区別ができる。 混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。
		3週	物質の探究	混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。 元素、単体、化合物の意味と具体例が説明できる。
		4週	物質の探究	元素、単体、化合物の意味と具体例が説明できる。 同素体がどのようなものか説明できる。
		5週	物質の探究	物質を構成する分子・原子が常に運動していることが理解できる。 水の状態変化を説明できる。 物質の三態とその状態変化を説明できる。
		6週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。
		7週	前期中間試験　答案返却・解説	
		8週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	同位体について理解し、放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。
	2ndQ	9週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	原子番号から価電子の数を見積もり、原子の性質について考えることができる。
		10週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。
		11週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	イオンとイオン結合について具体例を挙げて説明できる。

		12週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	イオンとイオン結合について具体例を挙げて説明できる。
		13週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	分子と共有結合について具体例を挙げて説明できる。
		14週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	分子と共有結合について具体例を挙げて説明できる。
		15週	原子の構造と元素の周期表、化学結合の演習	
		16週	前期末試験　答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	金属と金属結合について具体例を挙げて説明できる。
		2週	原子量・分子量・式量と物質量	原子の相対質量と原子量が理解できる。 分子量・式量がどのような意味をもつか理解できる。
		3週	原子量・分子量・式量と物質量	アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。 物質量に関する問題が解ける。
		4週	原子量・分子量・式量と物質量	アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。 物質量に関する問題が解ける。
		5週	原子量・分子量・式量と物質量	気体の体積と物質量の関係を理解し、問題が解ける。
		6週	原子量・分子量・式量と物質量	気体の体積と物質量の関係を理解し、問題が解ける。
		7週	原子量・分子量・式量と物質量の演習	
		8週	後期中間試験　答案返却・解説	
	4thQ	9週	生物の多様性と共通性	地球上の生物の多様性について理解している。
		10週	生物の多様性と共通性	生物の共通性と進化の関係について理解している。
		11週	生物の多様性と共通性	生物に共通する性質について理解している。
		12週	生命活動とエネルギー	エネルギーと代謝、代謝を進める酵素について理解している。
		13週	生命活動とエネルギー	生体内におけるエネルギー変換（光合成と呼吸）について理解している。
		14週	生命活動とエネルギー	ミトコンドリアと葉緑体の起源について理解している。
		15週	生物の多様性と共通性および生命活動とエネルギーの演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	態度	合計
総合評価割合	70	25	5	100
基礎的能力	70	25	5	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	芸術

科目基礎情報

科目番号	1911011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	高校生の音楽　（教育芸術社）		
担当教員	澤田 大吾,菅田 慶		

到達目標

(1)音楽に関する知識や技術を身に着け、音楽的な表現の能力を養う。
(2)音楽に関する基礎的な知識や法則を理解する。
(3)時代ごとの音楽の様式や楽曲の特徴を理解し、鑑賞によって音楽の良さや美しさを感じ取る。
(4)音楽の歴史を考察し。音楽の文化的意義を理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	歌詞の内容や楽曲の背景h拝啓・構成を曲想から感じ取り、イメージを持って歌うことができる。	歌詞の内容や楽曲の背景を、イメージを持って歌うことができる。	歌詞の内容や楽曲の背景が理解できない。
評価項目2	楽譜の読み・書き、楽譜からの情報の読み取りができる。	基本的な楽譜の読み・書きができる。	基本的な楽譜の読み・書きができない。
評価項目3	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解し鑑賞できる。	楽曲の文化的・歴史的背景を理解し鑑賞できる	鑑賞する楽曲の特徴が理解できない。
評価項目4	音楽の歴史を考察し、音楽の文化的意義が理解できる。	音楽の歴史を考察し、それぞれの時代の特徴が理解できる。	それぞれの時代の歴史的特徴が理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	芸術の幅広い活動を通して、感性を高め音楽と社会の関わりを学び、優しさと思いやりに満ちた心を育成し芸術文化についての理解を深める。
授業の進め方・方法	講義と歌唱実技、鑑賞とによって授業を進める。
注意点	(1)課題は必ず期限内に提出すること。 (2)小テストを実施するので、復習をしておくこと。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.校歌	1-(1)校歌から見えてくる、地域や学校との繋がりを理解する 1-(2)イメージを持って、声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かして歌うことができる
		2週	同上	同上
		3週	2.楽典	2-(1)楽譜の読み方・書き方が理解できる 2-(2)楽譜の情報をよい取ることができる 2-(3)音符と休符の音の長さが理解できる上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	中間試験	

		8週	答案年客と解説	
	2ndQ	9週	3.鑑賞	3-(1)演奏者による表現の特徴を理解できる。 3-(2)楽曲の文化的・歴史的背景、声や楽器の音色の特徴を感じ取って鑑賞できる。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	4.西洋音楽史	4-(1)～(4)それぞれの時代背景と特徴が理解できる。
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	0	10	10	100
基礎的能力	70	10	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	総合英語Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911012	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 4
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	4
教科書/教材	MY WAY English Communication Ⅰ（三星堂）		
担当教員	上杉 鉛一		

到達目標

(1)教科書の語句を理解する
(2)教科書付属のCDを聞いて、その内容を理解する
(3)重要文法事項を含んだ基本構文を英作文出来る
(4)教科書付属のCDと同じ速さで音読できる
(5)遠隔授業の課題を確実に提出する、課題は試験と同等に評価する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
語句を理解する	８０%以上理解する	50%以上理解する(ように努力する)	50%は理解できない
聞き取りで理解できる	60%以上の内容を聞き取れる	40%以上を聞き取れる	40%は聞き取れない
基本構文を理解し、英作文出来る	冠詞等の微細な間違いのみで英作文出来る	基本構文を使って、通じる程度の英作文が出来る	基本構文を使えない
速音読が出来る	付属のCDと同じ速さで読める	時々遅れるが、読める	CDについて読もうとしない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)中学校で学習した語句・文法事項の復習に加え、高1程度の語句・文法を学習する (2)新出の文法事項を発展させる (3)英語の勉強方法をマスターする (4)「読む」「聞く」を中心として4技能の力を伸ばす
授業の進め方・方法	英単語の発音、意味を定着させる 文構造に注意して、英文の意味が分かるようにする 重要事項に注意して、英文の意味が分かり、それを使って簡単な英語が差分出来るようにする シャドーイング等の音読活動を通じて、英文を体にすり込む
注意点	(1) 今後学ぶ英語や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の復習が不可欠である。教科書・練習課題などを活用して主体的に学習すること。 (3) 課題を出すので、必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 (5) 遠隔授業の課題は試験と同等の評価とする。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション　Lesson 1 Proverbs Around the World Section 1, 2	・語句の意味および発音を定着させる。 ・いろんな国のことわざを学ばせる。
		2週	Lesson 1 Section 3　Practice	・語句の意味および発音を定着させる。 ・花のことわざを学ぶ。本文や重要語句、文法の理解度を確認させる。
		3週	Lesson 1 Challenge　A Piece of Cake	・世界のことわざ、慣用表現について理解させる
		4週	Lesson 2 Iwago Mitsuaki－ An Animal Photographer Section 1, 2	・語句の意味および発音を定着させる。 ・岩合光昭とネコ、その他の動物について学ばせる。
		5週	Lesson 2 Section 3, Practice	・岩合さんからのメッセージを理解させる。 ・本文や重要語句、文法の理解度を確認させる。
		6週	Lesson 2 Challenge　Photo Ark	・写真で動物を絶滅から守る運動について理解させる。

		7週	Lesson 1,2 のまとめ	・語句の意味および発音を定着させる。 ・時制（現在、過去、進行形）、助動詞、受動態について復習させる
		8週	前期中間試験の解答と説明	・語句の意味および発音を定着させる。 ・間違いを訂正させる。
	2ndQ	9週	Lesson 3 Sending Canned Mackerel to Space Section 1, 2	・本文で用いられていた単語の意味を確認させる。 ・宇宙食と高校生について学ばせる。
		10週	Lesson 3 Section 3, Practice	・高校生の作ったサバ缶についてまなばせる。 ・本文中に出てきた語法・熟語、文法（動名詞、to-不定詞)の使い方を復習させる。
		11週	Lesson 3 Challenge The World of Ramen	・語句の意味および発音を定着させる。 ・インスタントラーメンについて学ばせる。
		12週	Lesson 4 Messages from Winnie-the-Pooh Section1, 2	・語句の意味および発音を定着させる ・小熊のプーさんの作者とその内容について
		13週	Lesson 4 Section 3, Practice	・語句の意味および発音を定着させる。 ・文法（完了形）を学ばせる
		14週	Lesson 4 Challenge The Moomin Series	・語句の意味および発音を定着させる。 ・ムーミンシリーズのキャラクターについて学ばせる
		15週	Lesson 3, 4のまとめ	・語句の意味および発音を定着させる。 ・文法(動名詞、to-不定詞、完了形）を復習させる。
		16週	前期末試験の解答、説明	・語句の意味および発音を定着させる。 ・間違いを訂正させる。
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 Endangered Languages Section 1, 2	・語句の意味および発音を定着させる。 ・アルタ語とツィムシアン語について学ばせる
		2週	Lesson 5 Section 3, 4	・ 語句の意味および発音を定着させる。 ・アイヌ語とマリオ語の取り組みについて学ばせる
		3週	Lesson 5 Practice, Challenge Emotiki	・語句の意味および発音、文法(関係代名詞、it - to)を定着させる。 ・マオリ族の作った絵文字(Emotiki)について学ばせる
		4週	Lesson 6 A Wheelchair Traveler Section 1, 2	・語句の意味および発音を定着させる。 ・三代達也さんとイタリア旅行について学ばせる
		5週	Lesson 6 Section 3, 4	・語句の意味および発音を定着させる。 ・アテネの旅と旅から学んだことを学ばせる。
		6週	Lesson 6 Practice, Challenge Yasashii Nihongo	・語句の意味および発文法(分詞、It -- that)を定着させる。 ・やさしい日本語について学ばせる。
		7週	Lesson 5, 6のまとめ	・語句の意味および発音を定着させる。 ・文法(関係代名詞、分詞、仮主語)について復習させる。
		8週	後期中間試験の解答と説明	・語句の意味および発音を定着させる。 ・間違いを訂正させる。
	4thQ	9週	Lesson 7 The Fugees Section 1, 2	・語句の意味および発音を定着させる。 ・The FugeesとLumaについて学ばせる。
		10週	Lesson 7 Section 3, 4	・語句の意味および発音を定着させる。 ・Lumaの指導と町の人の反応について学ばせる。
		11週	Lesson 7 Practice, Challenge The Refugee Olympic Team	・語句の意味および発音、文法(副詞関係副詞、比較)を定着させる。 ・難民五輪選手団について学ばせる。
		12週	Lesson 8 Avatar Robots Section 1, 2	・語句の意味および発音を定着させる。 ・分身ロボット織り姫と作者の吉藤さんについて学ばせる。
		13週	Lesson 8 Section 3, 4	・語句の意味および発音を定着させる。 ・織り姫の特長と可能性について学ばせる
		14週	Lesson 8 Practice, Challenge Weak Robots	・語句の意味および発音、文法(仮定法）を定着させる。 ・弱いロボットについて学ばせる。
		15週	Lesson 7, 8のまとめ	・語句の意味および発音を定着させる。 ・文法(関係副詞、比較、仮定法）を定着させる。
		16週	学年末試験の解答と説明	・語句の意味および発音を定着させる。 ・間違いを訂正させる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語表現Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911013	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	桐原書店「FACTBOOK English Grammar Standard」この教科書は２年生の英語表現Ⅱでも使用するので、大切に扱うこと		
担当教員	下田 旭美		

到達目標

(1) 名詞・動詞・形容詞・副詞の語形変化を覚える。
(2) 単語や語句の文中での「働き」を理解する。
(3) 語や語句の「働き」にもとづいて、文の組み立てを理解する。
(4) 日本語と英語との語順の違いを理解する。
(5) 基本例文を暗記し、それをもとに自分からメッセージを伝えるための英文を作る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	語尾の変化形に気づき文中での意味が理解できる	名詞や動詞等の不規則変化形を間違えない	名詞や動詞等の不規則変化形を間違える
評価項目2	「働き」の違いをもとに、例文が正確に理解できる	「働き」から主語や動詞、目的語等の区別がつく	「働き」から主語や動詞、目的語等の区別がつかない
評価項目3	文の組み立ての違いから、例文が正確に理解できる	文の組み立てが区別できる	文の組み立てが区別できない
評価項目4	語順の違いや前置詞の働きを理解し、その知識を作文に利用できる	語順の違いや前置詞の働きが分かる	語順の違いや前置詞の働きが分からない
評価項目5	暗記した基本例文をもとに、新しい例文が作れる	基本例文を暗記し、筆記や口頭で再現できる	基本例文を暗記せず、筆記や口頭で再現できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 中学校で学習してきた総合的な英語の知識を、文の組み立てや文中での働きを中心に見直して、文法的な理解と知識の整理をする。 (2) 基本例文を暗唱し、それをもとに自分なりの例文が作れるように練習する。
授業の進め方・方法	・中学校で習った英語の知識の「復習」と新しい「見方」の学習になるので、英語が苦手な人は「再スタート」、そうでない人は知識の「定着」と「応用」の授業であることを充分理解し、授業に臨んでください。 ・１年生で教科書の半分を学習し、残りは２年生の「英語表現Ⅱ」で学習する。
注意点	・小テストを重視するので、日々の復習を忘れないこと。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス 序章	シラバス確認、評価方法についての説明 主語と述語／否定文と疑問文
		2週	第1章　文型（１）	基本文型１：自動型（SV） 基本文型２：説明型（SVC）
		3週	第1章　文型（１） 第2章　文型（２）	基本文型３：他動型（SVO） 基本文型４：授与型（SVOC）
		4週	第2章　文型（２）	基本文型５：目的語説明型（SVOC） 自動詞と他動詞
		5週	Plus　文型	命令文、there文、感嘆文
		6週	第3章　時制を表す表現（１）	現在形 過去形
		7週	前期中間試験	

		8週	答案返却と解説	
	2ndQ	9週	第3章　時制を表す表現（１）	過去形 （現在・過去）進行形
		10週	第4章　時制を表す表現（２）	未来を表す表現 未来を表すその他の形 同上
		11週	第５章　完了形（１）	現在完了形の基本 現在完了形が使われる状況
		12週	第５章　完了形（１） 第６章　完了形（２）	現在完了形が使われる状況 過去完了形
		13週	第６章　完了形（２）	未来完了形 現在完了進行形
		14週	第７章　助動詞（１）	must may
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	第７章　助動詞（１） 第８章　助動詞（２）	will can
		2週	第８章　助動詞（２） 第９章　助動詞（３）	should / shall had better / used to
		3週	第９章　助動詞（３）	控え目表現／依頼表現 助動詞＋完了形
		4週	Output Training 1	文型・時制・助動詞
		5週	第10章　受動態（１）	受動態の基本 状動態のさまざまな形（１）
		6週	第10章　受動態（１） 第11章　受動態（２）	日本語の「～される」と一致しない受動態 前置詞と受動態
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	4thQ	9週	第11章　受動態（２）	授与型（SVOO）／目的語説明型（SVOC）の受動態 受動態のさまざまな形（２） 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法
		10週	第12章　不定詞（１）	名詞的用法 形容詞的用法
		11週	第13章　不定詞（2）	副詞的用法 to 不定詞の否定
		12週	第13章　不定詞（2） 第14章　不定詞（3）	知覚動詞／使役動詞＋目的語＋動詞の原形 動詞＋目的語＋to 不定詞
		13週	第14章　不定詞（3）	to 不定詞の重要表現（１） 完了形の不定詞
		14週	Plus 不定詞	to 不定詞の重要表現（２） 独立不定詞
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度・ノート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	保健体育Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911014	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	橋本 真		

到達目標

1　自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、ひとりひとりが主体的に授業におけるルールを意識して実行できる。
2　保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。
3　球技では基本的な個人技能を習得する。
4　水泳ではクロールと平泳ぎの泳法を習得する。
5　ダンスではダンスコンテストを通じて、自分たちの感情を身体で表現する。
6　 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。	保健分野の内容について正しい知識を習得している。	保健分野の内容について正しい知識を習得していない。
評価項目3	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの技能だけでなく、スペースについての理解などオフザボールの動きについても習得している。	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの適切な技能を習得している。	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの適切な技能を習得していない。
評価項目4	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得している。	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得していない。
評価項目5	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現するだけでなく、それを周囲に対して教授することができる。	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現することができる。	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現することができない。
評価項目6	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 評価については、遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業内容について理解している。
		2週	新体力テスト屋内種目	体力テストの意義や必要性について理解している。 体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している。 体力テストの結果をもとに、自分の私生活へ反映することができる。
		3週	新体力テスト屋外種目	体力テストの意義や必要性について理解している。 体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している。 体力テストの結果をもとに、自分の私生活へ反映することができる。
		4週	New sports	インディアカの基本用語やルールについて理解している。
		5週	New sports	ソフトバレーではゲーム中にアタックを打って得点を決めることができる。
		6週	New sports	アルティメットではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。

		7週	New sports	アルティメットゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。
		8週	保健：救急救命講習	救急救命講習についての正しい知識を理解したうえで、必要な実技を習得している。
	2ndQ	9週	ウォータースポーツ	クロールについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		10週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		11週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		12週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		13週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		14週	保健：妊娠と出産	妊娠や出産についての正しい知識を理解したうえで、自分の意見を表明できる。
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験返却・解説	
後期	3rdQ	1週	保健：喫煙と健康	喫煙についての正しい知識を理解したうえで、自分の意見を表明できる。
		2週	ダンス	ダンスに必要な技能を習得しようとしている。
		3週	ダンス	グループで協力して1つのダンスを作ることができる。
		4週	ダンス	グループで協力して1つのダンスを作ることができる。
		5週	ダンス	自分たちの感情をダンスを通じて表現することができる。
		6週	ダンス	自分たちの感情をダンスを通じて表現することができる。
		7週	クラスマッチの練習	
		8週	クラスマッチの練習	
	4thQ	9週	こころの健康	こころの健康についての正しい知識を理解したうえで、自分の私生活へ実践しようとしている。
		10週	フットボール（CLIL学習）	サッカーの基本用語やルールについて理解している。
		11週	フットボール（CLIL学習）	ゲーム中に適切なプレーを選択している。
		12週	フットボール（CLIL学習）	サッカーではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。
		13週	フットボール（CLIL学習）	サッカーではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。
		14週	フットボール（CLIL学習）	フットサルの基本用語やルールについて理解している。
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験返却・解説	

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（保健や体育理論）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
評価内容	30	50	20	100

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	基礎実習

科目基礎情報

科目番号	1911015	科目区分	一般 / 必修
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	自主教材を使用		
担当教員	菅田 慶,川崎 雄貴		

到達目標

(1)本校の専門教育に使用される施設や教育内容を体験し、自分の将来の専門性についての見通しを得る。
(2) 情報リテラシについて理解する。
(3) レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションを実施できる。
(4) 海や船への関心を高め、仲間と協調する心の大切さを身につける。
(5) 工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作ができるようになる。
(6) 社会を支える経済について基本的な事柄を知る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	情報リテラシについてが理解できて、内容も説明できる。	情報リテラシについてが理解できる。	情報リテラシについてに関する理解できない。
評価項目2	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できて、実施できる。	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できる。	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションに関する理解できない。
評価項目3	海や船への関心を高め、仲間と協調し行動する大切さが理解し、実行できる。	海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できる。	海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できない。
評価項目4	センサを利用したプログラム、工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作が実行できる。	センサを利用したプログラム、工具や器具の取扱を理解し、それらを利用しての自作が理解できる。	センサを利用したプログラム、または工具や器具の取扱が理解できない。
評価項目5	触媒と酵素のはたらきと特徴が理解でき、説明することができる。	触媒と酵素のはたらきと特徴が理解できる。	触媒と酵素のはたらきと特徴が理解できない。
評価項目６	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考え、実行できる。	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考えることができる。	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	①本科目は各学科の専門科目の基礎となるもので、組織において協力して行動することの意義を理解しながら、実技・実習と情報演習を行う。 ②一般教科、商船学科、電子制御工学科、流通情報工学科で学習する基礎的な実習・演習を所属学科に関係なく習得する。 ③本科目では専門的知識・技術とその基礎を体験する。社会に貢献できる創造力と実践力の基礎を身につける。
授業の進め方・方法	前期は、１年生を６班にわけ、週ごとに、「練習船実習」「ロープワーク」「触媒と酵素のはたらきの観察」「工具・測定器取扱実習」「プログラミング実習」「地域創造実習基礎」のそれぞれを体験実習する。あわせて、クラスごとに行われる情報演習の授業も受講し、パソコン操作の基礎練習をする。後期は、情報演習に特化した授業を受講する。
注意点	教室での座学と違って、実習施設や設備の利用には、学習内容以外にも、実習態度や危険を避けるための服装等にも注意を払う必要がある。各実習テーマに沿った指示を守ることが肝要である。正当な事由なく無断欠席した場合は未履修となる。病気などで止むを得ない事情により欠席する場合には、学級担任または教務係に授業開始前に連絡すること。予習事項はガイダンスの時に指示する。班ごとに実習の内容が異なるので、日程表と簡易手引書で確認すること。連絡事項や服装などを毎回確認すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	基礎実習の目的を理解し、日程・実施場所・注意事項を確認する
		2週	情報モラル教育	ソーシャルメディアのガイドラインにより、正しい利用方法を学ぶ
		3週	情報モラル教育	情報システムのユーザガイドラインにより、正しい利用方法と管理方法を学ぶ
		4週	練習船実習	練習船乗船中の常道や危険回避に関する知識を得る
		5週	ロープワーク	船の運航と不可欠なロープの使い方を知る
		6週	触媒と酵素のはたらきの観察	ガラス器具や化学試薬などの適切な取扱を学習する
		7週	工具・測定器取扱実習	実習工具や測定機の扱い方を知る
		8週	プログラミング実習	プログラミングに関する知識を得る
	2ndQ	9週	地域創造実習基礎	地域の課題を発見し、それを解決できるアイデアを協働して考える
		10週	報告書作成法（Word）	Wordの使い方を習得し、実習に関する報告書を作成する
		11週	報告書作成法（Word）	Wordの使い方を習得し、実習に関する報告書を作成する
		12週	班別準備（Power Point）	Power Pointの使い方を習得し、実習に関するプレゼン資料を作成する

		13週	班別準備（Power Point）	Power Pointの使い方を習得し、実習に関するプレゼン資料を作成する
		14週	班別発表（Power Point）	自らの発表と他者の発表の聴講により、プレゼンテーション技術を習得する
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		2週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		3週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		4週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		5週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		6週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		7週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		8週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
	4thQ	9週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		10週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		11週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		12週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		13週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		14週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		15週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	小テスト	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	30	0	30	0	60
専門的能力	0	0	10	0	10	0	20
分野横断的能力	0	0	10	0	10	0	20

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	現代文Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『新　探求現代文Ｂ』（桐原書店）、『常用漢字　ダブルクリア　三訂版』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。
(2)鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。
(3)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。
(4)現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文学作品について、鑑賞の方法を理解し、実践できる。また、幅広い文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できない。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。
評価項目2	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、十分に感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができない。
評価項目3	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に積極的に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。
評価項目4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を十分に深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を積極的かつ適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深めたり、その特徴を把握することができない。また、それらの知識を活用して表現することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文（評論、小説、詩等）や表現単元を通して、内容を文章に即して理解し、相手に自己を表現できるようになることを、目標とする。われわれ人間と「ことば」とは、決して切り離せないものである。事実、相手との意思疎通、知識・技術の獲得と提供、自身の思考、いわゆる「コミュニケーション」と言われる活動のいずれも、「ことば」を用いないものはない。そして、これら「コミュニケーション」活動はすべて、「理解」と「表現」とを土台としている。 評論や小説、随想といった「表現」に触れ、その内容を適切に「理解」すること。また、相手に「理解」されやすい「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を養い、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。
注意点	(1) 随時、読書タイムや漢字小テストを行う。 (2) 読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 (3) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語事典、漢和辞典を持参することが望ましい。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.随想 ドリアン助川「沙魚」	(1)「随想」が評論的性格と小説的性格を有していることが理解できる。 (2)　作者の物の見方・感じ方・考え方を理解できる。 (3)難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	2.評論 池内了「科学と市民」、藤井明「集落の創造」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 主要な見解をつかむ。対比構造に着目する。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	

	2ndQ	9週	3.小説 夏目漱石「こころ」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	4.評論 佐々木幸綱「「もどかしさ」の融合」、西部忠「「可能性」としての貨幣」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 具体例の働きをつかむ。見解の根拠をつかむ。
		15週	同上	同上
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	5.瀬戸内や大崎上島に関するプレゼンテーション（グループ研究発表）	(1) グループごとに瀬戸内や大崎上島に関するテーマを設定して、資料としてまとめ、提示（発表）することができる。（パワーポイント） (2) 質疑応答から、聴衆としてふさわしい態度も身につけることができる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	6.評論 藤原新也「イスラム感覚」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	後期中間試験 試験返却・解説	
	4thQ	9週	7.評論 村上陽一郎「科学者とは何か」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	8.評論 鷲田清一「いのちは誰のものか？」	(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	古典Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	『新　探求古典Ｂ』（古文編）（漢文編）（桐原書店）、『古典文法クリアノート』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。
(2)古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。
(3)代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。
(4)教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	幅広く古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	基礎的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。
評価項目2	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができ、それを踏まえた音読・朗読ができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができない。
評価項目3	幅広い古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	基礎的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。また、それらに親しもうとすることができない。
評価項目4	教材として取り上げた作品以外についても、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	古典（古文・漢文）を読むことで、日本文化の歴史を理解し、国際人としての基盤を養成することを目的とする。国際人として行動するためには、自国の理解が欠かせない。１年次よりも長文の古典を読むことで、日本文化の多彩な様相について認識を深め、現代の文化の源流を学ぶことができ、日本についてさらに深い理解を得ることができる。古典を学習することは、現代とは違う「ものの見方・感じ方・考え方」を知ることでもある。現代とは異なる価値観を理解しようとし、馴染みのない表現に目を開くことは、広い視野を養い、他者（異文化間・自国間）とのコミュニケーションを実現させる力を養う基礎となる。なお、大学受験を想定しないため、古文の文法や漢文の句法は基礎の習得に留め、内容の理解に重点を置く。
授業の進め方・方法	（１）随時、古典文法や、漢文の訓読に関する小テストを行う。 （２）ノートの取り方は事前に指導するので、毎回、授業範囲分の教科書の本文を写してくること。
注意点	（１）電子辞書や古語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。 （２）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 『論語』	1-(1) 孔子や論語について確認する。 1-(2) 正確に訓読し、現代語訳を施す。 1-(3) 孔子の政治・学問・教育に関して理解する。 1-(4)「君子」に関する孔子の考えを理解する。
		2週	同上	同上
		3週	2. 陶潜「桃花源記」	2-(1) 書き下し文を正しく書くことによって、漢文に慣れることができる。 2-(2) 口語訳を通じて、中国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知ることができる。 2-(3) 物語の展開に沿って正確に読解する。 2-(4) 桃源郷が作られた理由をさぐる。桃源郷と大崎上島を比較する。グループに分かれて、「ユートピア（理想郷）」に関して探究する。
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上

		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 古文の基礎	3-(1)動詞・形容詞・形容動詞を復習する。 3-(2)助動詞の識別ができる。 3-(3)助動詞の「ず」「る・らる」「す・さす・しむ」「き・けり」「べし」「なり」等が理解できる。 3-(4)係り結びの法則が理解できる。
		10週	同上	同上
		11週	4. 『徒然草』「あだし野の露消ゆるときなく」「これも仁和寺の法師」「ある者、子を法師になして」等	4-(1) 古文の特徴に注意しながら読解する。重要単語・文法事項を注意する。 4-(2) 口語訳を通じて、兼好の物の見方、考え方、感じ方及び無常観を知る。 4-(3)兼好の考え方に関する意見を自由に討論する。 4-(4)ビデオ鑑賞。英訳の読解。
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	歴史

科目基礎情報

科目番号	1921003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『詳説　世界史B　改訂版』(山川出版社、2020年)		
担当教員	小河 浩		

到達目標

(1)ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の内容を理解できて、社会活動に応用できる。
(2)市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の内容を理解できて、社会活動に応用できる。
(3)植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の内容を理解できて、社会活動に応用できる。
(4) 中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の内容を理解 できて、社会活動に応用できる。
(5)戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界について、高等学校履修程度の内容を理解 できて社会活動に応用できる。また上記の時代にあたる日本および地域史について理解できて、社会活動に応用できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目2	市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の基礎的な用語などが理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目3	植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目4	中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。	中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目5	戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に応用できる。また、上記の時代にあたる日本および地域史について基礎的な事項が理解できて、社会活動に応用できる。	戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、社会活動に関心を向けられる。また上記の時代にあたる日本および地域史について基礎的な事項が理解できて、社会活動に関心を向けられる。	戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界および、上記の時代にあたる日本および地域史について基礎的な用語が理解できず、社会活動に応用できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (2)市民革命、産業革命などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (3)植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (4)中国(明・清から現代まで)について理解できて、社会活動に応用できる。 (5)戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界および、上記の時代にあたる日本および地域史について理解できて、社会活動に応用できる。
授業の進め方・方法	2年の歴史では、ルネサンス、大航海時代、宗教改革から絶対王政、市民革命期、帝国主義から二度の世界大戦を経て、米ソ冷戦構造からソ連崩壊後の現代にいたるまでのはば広い対象に関して学習する。中国に関しては明と清およびその後の中華人民共和国にいたるまでを学ぶなど、近代以降の歴史について学習する。グローバル化した世界の展開を理解するのは、語学ばかりでなく、世界の歴史や文化についての幅広い知識が必要である。本学年では、現代にいたるまでの世界の動向について、日本も含めて学習する。
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.ルネサンス、大航海時代、宗教改革	ガイダンス 1-(1)イタリアと北方のルネサンス,、文化史全体に全体について理解できて、社会活動に応用できる。
		2週	1.ルネサンス、大航海時代、宗教改革	1-(2)ポルトガルとスペインの台頭から大航海時代や同時代の日本についての影響について理解できて、社会活動に応用できる。

		3週	1.ルネサンス、大航海時代、宗教改革	1-(3)ドイツ、フランス、イギリスなどでの宗教改革とプロテスタントの成立、対抗宗教改革について理解できて、社会活動に応用できる。
		4週	2.絶対王政、啓蒙専制君主、植民地獲得	2-(1)スペイン、フランス、イギリスなどでの絶対王政時代について理解できて、社会活動に応用できる。
		5週	2.絶対王政、啓蒙専制君主、植民地獲得	2-(2) プロイセン、ロシアなどでの啓蒙専制君主について理解できて、社会活動に応用できる。
		6週	2.絶対王政、啓蒙専制君主、植民地獲得	2-(3)ヨーロッパ諸国間の戦争やヨーロッパ諸国の植民地獲得運動、ヨーロッパの思想や科学などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		7週	前期中間試験	前期中間試験
		8週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	答案返却と解説 3-(1)イギリスでの国王と議会の対立から、イギリス市民革命について理解できて、社会活動に応用できる。
	2ndQ	9週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(2)イギリスでの産業革命やその背景、資本主義の成立について理解できて、社会活動に応用できる。
		10週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(3)フランス革命やナポレオンの台頭について理解
		11週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(4)ナポレオン没落後の西欧での市民革命(七月、二月および三月革命など)の進行について理解できて、社会活動に応用できる。
		12週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(5)ヨーロッパでの啓蒙思想や文化史、ヨーロッパの科学の発展について理解できて、社会活動に応用できる。
		13週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(6) アメリカの独立と合衆国の特質について理解できて、社会活動に応用できる。
		14週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(1) 明と清、関連する日本の江戸時代について理解できて、社会活動に応用できる。
		15週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(2) 欧米列強の植民地支配(アヘン戦争など)とアジア、アフリカの植民地化侵攻および日本での明治維新や地域について理解できて、社会活動に応用できる。
		16週	前期末試験	前期末試験
後期	3rdQ	1週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	答案返却と解説 4-(3) アフリカやアジアでの植民地側の抵抗について理解できて、社会活動に応用できる。
		2週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(4)社会主義思想の出現と普及や欧米市民社会の成熟について理解できて、社会活動に応用できる。
		3週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(5)イギリス、フランス、ドイツ、ロシアなどの帝国主義の時代の世界情勢について理解できて、社会活動に応用できる。
		4週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(6)欧米列強による中国半植民地化と孫文らによる辛亥革命について理解できて、社会活動に応用できる。
		5週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(7)第一次世界大戦の発生とその過程と当時の日本や地域の関わりについて理解できて、社会活動に応用できる。
		6週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(8)レーニンの登場から初期のソヴィエト革命の展開について理解できて、社会活動に応用できる。
		7週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(9)戦間期の時代、世界恐慌やファシズムの台頭、社会主義勢力の拡大 について理解できて、社会活動に応用できる。
		8週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(10) ナチス政権の登場、スターリンの支配のソヴィエト、アメリカなどの動向から第二次世界大戦、太平洋戦争について理解できて、社会活動に応用できる。
	4thQ	9週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(1)第二次世界大戦後の東西両陣営の形成、国際連合の成立などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		10週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(2)中華人民共和国の成立、朝鮮戦争やキューバ危機、核兵器の発達と脅威や世界各地での冷戦構造の展開について理解できて、社会活動に応用できる。
		11週	後期中間試験	後期中間試験
		12週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	答案返却と解説 5-(3)米ソ冷戦構造の新展開とフルシチョフ時代の雪解けなどについて理解できて、社会活動に応用できる。
		13週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(4)戦後日本の歩みについて、現代にいたるまで理解できて、社会活動に応用できる。
		14週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(5)ゴルバチョフの登場からソ連崩壊から冷戦終結後の現代について理解できて、社会活動に応用できる。
		15週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(6)地域紛争や、科学・産業の発展、思想とその諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。
		16週	学年末試験	学年末試験、答案返却と解説

評価割合

	試験および後期中間分は課題を試験と同等に扱う	グループ発表	相互評価	授業態度		その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	数学ⅡA

科目基礎情報

科目番号	1921004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）、新微分積分Ⅰ（大日本図書）、新微分積分Ⅰ問題集（大日本図書）		
担当教員	川崎 雄貴		

到達目標

(1)さまざまな初等関数について、その性質とグラフを理解できる。
(2)指数関数、対数関数のグラフと性質が理解できる。
(3)直線や2次曲線の図を理解し、方程式を求めることができる。
(4)極限値の計算ができて、導関数の定義が理解できる。
(5)導関数の性質を用いて、いろいろな関数の微分が計算できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
いろいろな関数	関数の性質を一般的に理解し、いろいろな関数を系統的に捉えている。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができない。
指数関数と対数関数	指数関数と対数関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	指数・対数の計算ができて、指数関数・対数関数のグラフをかくことができる。	指数・対数の計算が出来ず、指数関数・対数関数のグラフをかくことができない。
図形と方程式	直線や2次曲線の方程式を用いて、複雑な問題を処理することができる。	直線や2次曲線の方程式を求めることができる。	直線や2次曲線の方程式を求めることができない。
関数の極限と導関数	関数の極限値を理解し、導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができて、いろいろな関数の導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができず、いろいろな関数の導関数を導くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3)無理関数などの初等的関数の性質を理解することを目標とする。 (4)指数関数と対数関数の関係と性質を理解することを目標とする。 (5)図形と式の関係と性質を理解することを目標とする。 (6)微分法の概念を理解し、様々な関数の導関数の計算ができるようにする。 (7) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目の「応用数学」に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	2次関数	2次関数の復習（1年生学習事項の復習）
		2週	2次関数	2次不等式が理解できる。
		3週	いろいろな関数	偶関数・奇関数が理解できる。 べき関数のグラフをかくことができる。
		4週	いろいろな関数	分数関数のグラフをかくことができる。
		5週	いろいろな関数	無理関数のグラフをかくことができる。 グラフの対称移動および拡大縮小が理解できる。
		6週	いろいろな関数	逆関数が理解できる。
		7週	前期中間試験	
		8週	指数関数	累乗根の計算ができる。
	2ndQ	9週	指数関数	指数の拡張ができる。
		10週	指数関数	指数関数のグラフがかける。
		11週	指数関数	指数関数の方程式と不等式がとける。
		12週	対数関数	対数の定義が理解できる。
		13週	対数関数	対数の性質が理解できる。
		14週	対数関数	底の変換公式を用いた計算ができる。
		15週	前期末試験	
		16週	対数関数	対数関数のグラフをかくことができる。
後期	3rdQ	1週	対数関数	対数の方程式・不等式を解くことができる。
		2週	対数関数	常用対数の理解ができる。
		3週	点と直線	2点間の距離を求めることができる。

		4週	点と直線	内分点の座標を求めることができる。
		5週	点と直線	直線の方程式を求めることができる。
		6週	点と直線	2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
		7週	2次曲線	円の方程式を求めることができる。
		8週	2次曲線	円の方程式を求めることができる。
	4thQ	9週	2次曲線	放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。
		10週	2次曲線	不等式の表す領域を求めたり、領域を不等式で表すことができる。
		11週	後期中間試験	
		12週	関数の極限	関数の極限値を計算できる。
		13週	関数の極限	無限大の概念を理解できる。
		14週	導関数	微分係数の定義を理解できる。
		15週	導関数	導関数を定義を用いて導くことができる。 導関数の性質を使って微分の計算ができる。
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	小テスト	課題	授業態度	合計
総合評価割合	60	10	20	10	100
基礎的能力	40	5	15	10	70
専門的能力	15	5	5	0	25
分野横断的能力	5	0	0	0	5

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	数学ⅡB

科目基礎情報

科目番号	1921005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新線形代数（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）、新線形代数問題集（大日本図書）		
担当教員	菅田 慶		

到達目標

(1) 三角関数のグラフをかいたり、三角関数を含む方程式を解くことができる。
(2) 加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。
(3) ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。
(4) ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基本的な三角関数のグラフを利用して、いろいろなグラフをかくことができる。それを利用して方程式を解ける。	基本的な三角関数のグラフを書いたり、簡単な方程式を解いたりすることができる。	基本的な三角関数のグラフをかけない。方程式を解けない。
評価項目2	加法定理を理解し、それを応用して、2倍角の公式などを導出し、適切に利用することができる。	加法定理やそれから導出される公式を適切に利用することができる。	加法定理やそれから導出される公式を使うことができない。
評価項目3	ベクトルを用いた解法と用いない解法を比較することにより、ベクトルの有用性について認識している。	ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。	ベクトルの概念を理解していない。
評価項目4	ベクトルと直線・平面・球の方程式の関係性を深く理解し、複雑な問題を処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3) 三角関数の基礎を理解し、その応用方法を習得できるように学習する。 (4) ベクトルの概念を理解し、基礎から応用まで幅広く学習する。 (5) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	三角関数	弧度法が理解できる。
		2週	三角関数	弧度法が理解できる。
		3週	三角関数	一般の角や弧度法で表された角の三角関数の性質を理解できる。
		4週	三角関数	一般の角や弧度法で表された角の三角関数の性質を理解できる。
		5週	三角関数	三角関数のグラフをかくことができる。
		6週	三角関数	三角関数のグラフをかくことができる。
		7週	前期中間試験・答案返却・解説	
		8週	三角関数	三角関数を含む方程式を解くことができる。
	2ndQ	9週	三角関数	三角関数を含む方程式を解くことができる。
		10週	三角関数	加法定理を理解できる。
		11週	三角関数	加法定理を理解できる。
		12週	三角関数	加法定理から導出される公式を使うことができる。
		13週	三角関数	加法定理から導出される公式を使うことができる。
		14週	三角関数	三角関数の合成を理解できる。
		15週	三角関数	三角関数の合成を理解できる。
		16週	前期末試験・答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	平面ベクトル	ベクトルの定義を理解し、 平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		2週	平面ベクトル	ベクトルの定義を理解し、 平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。

		3週	平面ベクトル	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		4週	平面ベクトル	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		5週	平面ベクトル	平面において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		6週	空間ベクトル	空間ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		7週	空間ベクトル	空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		8週	空間ベクトル	空間ベクトルの内積を求めることができる。
	4thQ	9週	後期中間試験・答案返却・解説	
		10週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		11週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		12週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		13週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		14週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		15週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		16週	学年末試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	課題	授業態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	20	10	0	0	100
基礎的能力	60	10	20	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	数学ⅡC

科目基礎情報

科目番号	1921006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）、新微分積分Ⅰ（大日本図書）、新微分積分Ⅰ問題集（大日本図書）、新線形代数（大日本図書）、新線形代数問題集（大日本図書）		
担当教員	川崎 雄貴		

到達目標

(1) さまざまな初等関数について、その性質とグラフを理解が理解できる。
(2) 三角関数、指数関数、対数関数のグラフと性質が理解できる。
(3) 極限値の計算ができて、導関数の定義が理解できる。
(4) 導関数の性質を用いて、いろいろな関数の微分が計算できる。
(5) 直線や円の方程式を求めることができる。
(6) ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。
(7) ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。
(8) 行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	関数の性質を一般的に理解し、いろいろな関数を系統的に捉えている。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	いろいろな関数の性質を理解できず、そのグラフをかくことができない。
評価項目2	三角関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	三角関数の性質やグラフを理解し、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができる。	三角関数の性質やグラフが理解できず、様々な式変形や、方程式や不等式を解くことができない。
評価項目3	指数関数と対数関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	指数関数・対数関数の性質やグラフを理解し、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができる。	指数関数・対数関数の性質やグラフが理解できず、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができない。
評価項目4	関数の極限値を理解し、導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができて、いろいろな関数の導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができず、いろいろな関数の導関数を導くことができない。
評価項目5	直線や円の方程式を用いて、複雑な問題を処理することができる。	直線や円の方程式を求めることができる。	直線や円の方程式を求めることができない。
評価項目6	ベクトルを用いた解法と用いない解法を比較することにより、ベクトルの有用性について認識している。	ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。	ベクトルの概念を理解していない。
評価項目7	ベクトルと直線・平面・球の方程式の関係性を深く理解し、複雑な問題を処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解していない。
評価項目8	連立方程式の行列を用いた解法について、計算過程を論理的に説明できる。	行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。	行列の性質や逆行列について理解しておらず、基本的な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3)無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の性質を理解することを目標とする。 (4)微分法の概念を理解し、様々な関数の導関数の計算ができるようにする。 (5) ベクトルの概念を理解し、基礎から応用まで幅広く学習する。 (6) 行列の概念を理解し、基本的な計算技術を習得する。 (7) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	いろいろな関数	べき関数のグラフをかくことができる。
		2週	いろいろな関数	分数関数のグラフをかくことができる。
		3週	三角関数	弧度法が理解でき、三角関数のグラフがかける。
		4週	図形と式	2点間の距離・内分点の座標を求めることができる。
		5週	図形と式	通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。
		6週	前期中間試験	
		7週	いろいろな関数	無理関数のグラフをかくことができる。
		8週	いろいろな関数	逆関数の理解ができる。

	2ndQ	9週	図形と式	基本的な円の方程式を求めることができる。
		10週	三角関数	三角関数の方程式・不等式が解ける。
		11週	三角関数	加法定理・２倍角公式・半角公式を用いた計算ができ、三角関数の合成ができる。
		12週	指数関数	累乗根の計算ができる。
		13週	指数関数	指数方程式・不等式が解ける。
		14週	平面ベクトル	ベクトルの定義が理解できる。
		15週	平面ベクトル	平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	平面ベクトル	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		2週	平面ベクトル	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		3週	平面ベクトル	平面において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		4週	対数関数	対数の定義・性質が理解でき、基本的な計算ができる。
		5週	対数関数	対数の方程式を解くことができる。
		6週	関数の極限	関数の極限値を計算できる。
		7週	関数の極限	導関数を定義を用いて導くことができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	空間ベクトル	空間ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		10週	空間ベクトル	空間ベクトルの成分表示ができ、内積等の基本的な計算ができる。
		11週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		12週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		13週	導関数	微分係数の定義を理解できる。
		14週	導関数	導関数の定義を用いて導くことができる。
		15週	導関数	導関数の性質を使って微分の計算ができる。
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	小テスト	課題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	10	10	60	20	0	0	100
基礎的能力	10	10	60	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	物理

科目基礎情報

科目番号	1921007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）／参考図書：「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 （海文堂）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 物体に力が働いた時の運動の状態を理解出来る様になり、具体的な計算ができる様になる。
(2) エネルギーと仕事の関係、エネルギー相互の変換、エネルギー保存則を学び、理解を深められる様になる。
(3) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	力の概念と各法則について理解しており、複雑な合成や分解の計算結果を運動方程式に正しく代入し、計算することも出来る。	力の種類と単位、フックの法則、力の合成と分解、力の成分、力の釣り合い、作用･反作用の法則、慣性の法則、運動の法則について説明でき、運動方程式を解ける。	力についての基本的な概念を説明できず、力についての法則も理解出来ない。運動方程式を立てることも出来ない。
評価項目2	複数の力が働く場合でも運動方程式を立てることが出来、それらを正しく連立して解くことができる。摩擦角についての問題も解くことができる。	張力が働く場合の運動、押し合う力が働く２物体の運動、摩擦力が働く場合の運動、空気抵抗が働く場合の運動、圧力と浮力について基本的な問題を解くことができる。	力の働きについて説明できない。または、力のベクトルを図形に記入することが出来ない。よって、運動方程式を立てることも出来ない。
評価項目3	波の位相、横波と縦波、波の独立性と重ね合わせの原理、定常波、自由端反射と固定端反射についての応用的な問題を解くことが出来る。	媒質の振動、等速円運動と単振動、波の位相、横波と縦波、波の独立性と重ね合わせの原理、定常波、自由端反射と固定端反射についての基本的な問題を解ける。	波や等速円運動、単振動の基本的な概念を理解しておらず、波についての基本的な物理量の計算ができない。自由端や固定端で反射した波についての簡単な作図もできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。 (2) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。 (3) 運動がエネルギー保存則により理解出来る事を学び、エネルギーと仕事の関係、エネルギーの種類と相互変換なども学習する。 (4) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.運動の法則	1-(1) 慣性の法則、運動の法則について説明でき、問題を解くことができる。 1-(2) 運動方程式、重力と質量、単位と次元について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		2週	2. 運動方程式の応用	2-(1) 張力が働く場合の運動、押し合う力が働く２物体の運動について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		3週	2. 運動方程式の応用	2-(2) 摩擦力が働く場合の運動、静止摩擦力、摩擦角、動摩擦力についての問題を解くことができる。
		4週	2. 運動方程式の応用	2-(3) 空気抵抗が働く場合の運動について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		5週	2. 運動方程式の応用	2-(4) 圧力と浮力についての計算ができる。

		6週	3. 仕事とエネルギー	3-(1) 仕事の原理、仕事、仕事率
		7週	3. 仕事とエネルギー	3-(2) 負の仕事、曲面に沿って動く場合の仕事
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 仕事とエネルギー	3-(3) 物体の運動エネルギーに関する計算ができる。 3-(4) 運動エネルギーと仕事に関する計算ができる。
		10週	3. 仕事とエネルギー	3-(5) 重力による位置エネルギーに関する計算ができる。
		11週	3. 仕事とエネルギー	3-(6) 弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。
		12週	3. 仕事とエネルギー	3-(7) 力学的エネルギー保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。
		13週	4. 温度と熱	4-(1) 原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について理解している。 4-(2) 物体の熱容量と比熱について理解している。
		14週	4. 温度と熱	4-(3) 時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを理解している。 4-(4) 熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。
		15週	4. 温度と熱	4-(5) 気体の内部エネルギーについて理解している。 4-(6) 熱力学第一法則について理解している。 5-(7) ボイル・シャルルの法則について説明できる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	4. 温度と熱	4-(7) エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを、具体例を挙げて説明できる。 4-(8) 不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。
		2週	4. 温度と熱	4-(9) 熱機関について理解し、熱効率に関する計算ができる。
		3週	5. 波の伝わり方	5-(1) 波の波長、周期、振動数、速さについて説明と計算が出来る。
		4週	5. 波の伝わり方	5-(2) 横波と縦波についての計算や作図ができる。
		5週	6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(1) 波の重ね合わせの原理を理解している。 6-(2) 波の独立性を理解している。
		6週	6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(3) 定常波、自由端反射と固定端反射についての計算や作図ができる。
		7週	6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(4) 波面、２つの波の干渉、波の回折の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	7. 波の反射と屈折・音	7-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題が解ける。 7-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が解ける。
		10週	7. 波の反射と屈折・音	7-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができる。
		11週	7. 波の反射と屈折・音	7-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。
		12週	7. 波の反射と屈折・音	7-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる（開口端補正は考えない）。
		13週	7. 波の反射と屈折・音	7-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。
		14週	8. 光	8-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		15週	8. 光	8-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	理科総合

科目基礎情報

科目番号	1921008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	化学基礎（啓林館）、生物基礎（啓林館）、化学基礎の基本マスター		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

(1) 物質量について理解し、応用できる。
(2) 気体の性質に関する知識を習得し、応用できる。
(3) 酸と塩基に関する知識を習得し、応用できる。
(4) 酸化還元反応に関する知識を習得し、説明できる。
(5) 生物の多様性と生態系について知識を習得し、説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 物質量	物質量について理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質量について理解し、標準的な計算問題を解くことができる。	物質量について理解していない。
評価項目2 化学反応式	化学反応式を理解し、発展的な問題を解くことができる。	化学反応式を理解し、標準的な問題を解くことができる。	化学反応式を理解していない。
評価項目3 酸と塩基	酸と塩基について理解し、発展的な問題を解くことができる。	酸と塩基について理解し、標準的な問題を解くことができる。	酸と塩基について理解していない。
評価項目4 生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系について理解し、発展的な問題を解くことができる。	生物の多様性と生態系について理解し、標準的な問題を解くことができる。	生物の多様性と生態系について理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	化学：1年生で学んだ物質の構造、化学結合などの知識を基礎に、様々な物質の性質や化学変化に関する知識と考え方を習得する。 生物：様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1年生（化学）の復習（原子の構造と化学結合） 1.原子量・分子量・式量と物質量	原子の構造と化学結合について理解している。 原子の相対質量と原子量か゛理解できる。
		2週	1.原子量・分子量・式量と物質量	分子量・式量がどのような意味をもつか理解できる。 アボガド口定数を理解し、物質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。物質量に関する問題が解ける。
		3週	1.原子量・分子量・式量と物質量	気体の体積と物質量の関係を理解し、問題が解ける。
		4週	2.溶液の濃度	電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。 質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。
		5週	2.溶液の濃度	モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。
		6週	原子量・分子量・式量と物質量、溶液の濃度の演習	
		7週	前期中間試験　答案返却・解説	
		8週	3.化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。
	2ndQ	9週	3.化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。
		10週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		11週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		12週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		13週	4.酸と塩基	酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)が説明できる。 酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。
		14週	4.酸と塩基	酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。 電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。
		15週	化学反応式、酸・塩基の演習	
		16週	前期末試験　答案返却・解説	

後期	3rdQ	1週	前期の復習（物質量と化学反応式）	物質量について理解している。 化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		2週	前期の復習（酸と塩基）	酸・塩基の定義を理解している。 酸・塩基の価数と強弱を理解している。
		3週	4.酸と塩基	pHが説明でき、pHから水素イオン濃度、水素イオン濃度からpHを計算できる。
		4週	4.酸と塩基	pHが説明でき、pHから水素イオン濃度、水素イオン濃度からpHを計算できる。
		5週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		6週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		7週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		8週	物質量と化学反応式、酸と塩基の演習	
	4thQ	9週	後期中間試験 答案返却・解説	
		10週	生物の多様性と生態系	植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。
		11週	生物の多様性と生態系	世界のバイオームとその分布について説明できる。 日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。
		12週	生物の多様性と生態系	生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。 生態ピラミッドについて説明できる。
		13週	生物の多様性と生態系	生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。 熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。
		14週	生物の多様性と生態系	生態系のバランスと保全について説明できる。
		15週	生物の多様性と生態系の演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	態度	合計
総合評価割合	70	25	5	100
基礎的能力	70	25	5	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	総合英語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 4
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	4
教科書/教材	New Flag English CommunicationⅡ（増進堂出版）		
担当教員	藤沢 徹也		

到達目標

(1)新出語彙を、音の変化を意識しながら、理解し定着させる。
(2)まとまった英文の内容を、文法内容を理解し、音声トレーニングをすることにより、自動化させる。
(3)テキストの内容を、暗唱した本文を利用して、パラフレーズしたり自らの意思を簡単な英語で表出できるようになる 。
(4)テキストを、音声トレーニングにより、オーバーラッピングやシャドーイングができるようになる。。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 語句を理解する	全ての新出語句の綴り、発音、意味を理解できる	多くの新出語句の綴り、意味、発音を理解できる。	新出語句の綴り、意味、発音を理解しようとしない。
評価項目2 聞き取りで理解できる	本文を音声CDと同じ速さ、調子で音読できる	音声CDとある程度同じ速さ、調子で音読できる。	音声CDと同じ速さ調子で読もうとしない
評価項目3 基本構文を理解し、英作文が作れる	冠詞等の微細な間違いのみで英作文が作れる	基本構文を使って、通じる程度の英作文が作れる	基本構文を使えない
評価項目４ 速音読が出来る	付属のCDと同じ速さで読める	時々遅れるが、読める	CDについて読もうとしない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	新出語句の綴り、発音、意味を理解できる。 英文を音声CDと同じ速さ、調子で音読出来る。 音読出来るようになった英文を聞いて理解できる。 文法事項を系列立てて理解できる。
授業の進め方・方法	単語テストにより、語句の定着をはかる。 文構造に注意して、英文の意味が分かるようにする。 英文を音声CDについて音読する。出来るまで何度も挑戦する。 重要事項に注意して、英文の意味が分かり、それを使って簡単な英作文が出来るようにする。
注意点	(1) 学習内容の定着には、日々の復習が不可欠です。 (2) 教科書などを活用して主体的に学習するよう心がけてください (3) 提出物等の期限は厳守してください。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Chapter 1 Sakura Michi	受身、関係代名詞、関係副詞
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	Chapter 2 Learning English	現在完了、省略、SVC
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	Chapter 1 復習	Chapter 1の定着
		8週	Chapter 2 復習	Chapter 2の定着
	2ndQ	9週	Chapter 3 Interview with Rosa Parks	SVOC、不定詞の受身、疑問詞+to do、関係代名詞what
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	Chapter 4 Communication Breakdown	分詞構文、itとoneの違い、不定詞の否定、仮定法
		13週	同上	
		14週	同上	

		15週	Chapter 3,4の復習	Chapter 3,4の定着
		16週	答案返却と解説	定着できていなかったことの確認と理解
後期	3rdQ	1週	Chapter 5 Rise Again, Motala!	関係代名詞の非制限用法、助動詞 have 過去分詞、完了形の受身、It costs (takes) ~ to do
		2週	同上	
		3週	同上	
		4週	Chapter 6 A Decicous Japanese Culture: Bento	I wish ＋仮定法、助動詞を含む受身、過去分詞の後置修飾、完了不定詞
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	Chapter 5の復習	Chapter 5の定着
		8週	Chapter 6の復習	Chapter 6の定着
	4thQ	9週	Chapter 7　Palm Oil from Diamond Island	動名詞の意味上の主語、無生物主語、未来進行形、進行形の受身
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	Chapter 8　I Made It!	大過去、SVOC(原形不定詞)、強調構文、形容詞+to do
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	Chapter 7,8の復習	Chapter 7,8の定着
		16週	答案返却と解説	定着できていなかったことの確認と理解

評価割合

	試験	宿題プリント	予習ノート	長期休み課題・音読テスト	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	60	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語表現Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	大修館書店「Genius ジーニアス総合英語　English Grammar in 27 Lessons」（１年生で使用した教科書を継続して使用する）		
担当教員	池田 幸恵		

到達目標

(1)不定詞、動名詞の各用法を理解し、その違いに気づく
(2)分詞の各用法を理解する
(3)比較の各用法を理解する
(4)関係詞を理解する
(5)仮定法の考え方を理解する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
準動詞の各用法を理解する	各用法を理解し、それを含む英文の意味を理解する	各用法の意味が言える	各用法が理解できない
比較の各用法を理解する	比較を含んだ英文の意味が分かる	各級の形を理解できる	各級の形が分からない
関係詞の使われ方を理解する	関係詞を含んだ英文の意味を理解し、関係詞を含む英作文が出来る	関係詞の使われ方を理解する	関係の使われ方が理解できない
仮定法を理解する	仮定法の表現が分かり自分でも使うことができる	仮定法の表現が分かる	仮定法の考え方が理解できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)中学校・高専1年で学習した語句・文法事項の復習に加え高２程度の語句・文法を学習する (2)文法事項を発展させる（準動詞、関係代名詞、比較の発展） (3)新出事項を学習する（分詞構文、関係副詞、仮定法） (4)「話す」「書く」を中心として4技能の力を伸ばす (5)重要構文の暗唱と、その重要性を理解する
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ英語や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・小テスト・練習課題などを活用して主体的に学習すること。 (3) 予習・復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	(1)日頃の学習の積み重ねが重要なので、復習を特にしっかりする (2)そのためにもノートをきちんととる (3)繰り返し行う小テストを大事にする

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 不定詞の復習	オリエンテーション 1年次に学習した不定詞（特に名詞用法）の復習
		2週	Lesson 17　動名詞①	動名詞の働きと意味上の主語を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		3週	Lesson 18　動名詞②	様々な形、動名詞とto-不定詞、慣用表現を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		4週	Lesson 15. 動名詞②	様々な形、動名詞とto-不定詞、慣用表現を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		5週	動名詞とto-不定詞のまとめ	動名詞とto-不定詞のまとめ
		6週	前期中間試験	これまで学習した範囲から出題

		7週	試験の返却・説明 Lesson 19 分詞①	試験の解説とともに不定詞の復習をする 分詞の限定用法 叙述用法 SVO＋分詞(keep, leaveなど＋O＋分詞)
		8週	Lesson 19 分詞①	分詞の限定用法 叙述用法 SVO＋分詞(keep, leaveなど＋O＋分詞) を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
	2ndQ	9週	Lesson 20 分詞②	分詞構文の基本的な形と働きを理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		10週	Lesson 20 分詞②	分詞構文が表す意味／否定語の位置 分詞構文の完了形 接続詞をつけた分詞構文 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		11週	Further Study 分詞	独立分詞構文 付帯状況を表す（with ＋O＋分詞） 分詞を使ったさまざまな表現 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		12週	Further Study 分詞	独立分詞構文 付帯状況を表す（with ＋O＋分詞） 分詞を使ったさまざまな表現 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		13週	Lesson 21 比較①	比較変化 原級 比較級 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		14週	Lesson 21 比較②	最上級 原級・比較級を使って、最上級の意味を表す表現 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		15週	総まとめ	分詞、比較のまとめをする
		16週	試験返却、説明	試験の解説とともに分詞、比較の復習をする
後期	3rdQ	1週	Lesson 20, 21 比較	比較変化、原級、比較級 最上級、原級・比較級を使って、最上級の意味を表す表現 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		2週	Further Study 比較	原級を使ったさまざまな表現 比較級を使ったさまざまな表現 最上級を使ったさまざまな表現 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		3週	Lesson 23 関係詞①	先行詞が人の場合、人以外の場合を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		4週	Lesson 23 関係詞①	先行詞が人の場合、人以外の場合を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		5週	Lesson 24 関係詞②	関係詞と前置詞、whatの用法を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		6週	Lesson 24 関係詞②	関係代名詞と前置詞 whatの用法 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		7週	Lesson 25 関係詞③	関係副詞 関係代名詞の非制限用法 関係副詞の非制限用法 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		8週	後期中間試験	これまで学習した範囲から出題
	4thQ	9週	試験返却、説明 Further Study 複合関係詞、慣用表現	試験の解説とともに比較と関係詞の復習をする 複合関係詞、慣用表現を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		10週	Lesson 26 仮定法①	直接法と仮定法 仮定法過去 仮定法過去完了 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		11週	Lesson 26 仮定法①	直接法と仮定法 仮定法過去 仮定法過去完了 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		12週	Lesson 27 仮定法②	wishを使った仮定法 as ifを使った仮定法 shouldを使った仮定法 were to を使った仮定法 ifの省略、慣用表現 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる

		13週	Lesson 27. 仮定法②	wishを使った仮定法 as ifを使った仮定法 shouldを使った仮定法 were to を使った仮定法 ifの省略、慣用表現 を理解し、その知識を読んだり書いたりする活動で実践できる
		14週	仮定法のまとめ	仮定法のまとめをする
		15週	学年末試験	これまで学習した範囲から出題
		16週	試験返却、説明	試験の解説をし、重要点を復習する

評価割合

	試験		相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	保健体育Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	適宜配布		
担当教員	柴山 慧		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、ひとりひとりが主体的に授業におけるルールを意識して実行できる。
2 保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを発信できる。
3 身体つくりでは、自身の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できる。
4 球技では個人技能だけでなく集団技能を習得する。
5 水泳では背泳ぎの泳法を習得する。
6 ダンスでは自分の感情をダンスを通じて表現できる。
7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを発信できる。	保健分野の内容について正しい知識を習得している。	保健分野の内容について正しい知識を習得していない。
評価項目3	自身や他者、社会の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できる。	自身の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できる。	自身の健康や体力の維持や向上につながる活動を実施できない。
評価項目4	パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能だけでなく、集団での戦術などの技能についても習得している。	パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能を習得している。	パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能を習得していない。
評価項目5	背泳ぎに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	背泳ぎに必要な技能を習得している。	背泳ぎに必要な技能を習得していない。
評価項目6	ダンスに必要な技能を習得し表現できるだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	器械運動に必要な技能を習得し表現することができる。	器械運動に必要な技能を習得し表現することができない。
評価項目7	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)保健体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、健康に関する基本的な知識の重要性を理解したうえで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。←減点の対象。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、身体つくり	身体つくりの意義や必要性について理解している
		2週	ソフトボール	ソフトボールの基本用語やルールについて理解している
		3週	ソフトボール	バッティングについて適切な動作を習得している
		4週	ソフトボール	守備時の適切な動き方について理解している
		5週	ソフトボール	守備時の適切な動き方について理解している
		6週	身体つくり、体力テスト屋外種目	自身の健康や体力の維持、向上につながる活動を実施してきている
		7週	身体つくり、体力テスト屋内	自身の健康や体力の維持、向上につながる活動を実施してきている
		8週	妊娠・出産と人口妊娠中絶	学習内容についての知識を習得し、自分の意見を表発信できる
	2ndQ	9週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる自身のスポーツ活動を実施できる

		10週	ウォータースポーツ	背泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる
		11週	ウォータースポーツ	10分間泳に必要なフォームを習得している
		12週	ウォータースポーツ	水球の基本用語やルールについて理解している
		13週	ウォータースポーツ	水球の基本用語やルールについて理解している
		14週	オリンピックと国際理解	学習内容についての知識を習得し、他者と協力して自分の意見を発信できる
		15週	前期末試験	前期に学習した内容をもとに必要な資料を作成し、30点以上得点することができる
		16週	前期末試験返却・解説	
後期	3rdQ	1週	ダンス	ダンスの基本用語や安全について理解している。
		2週	ダンス	ダンスの基本用語や安全について理解している
		3週	ダンス	基本的な技能について習得している
		4週	ダンス	自分ができる技能を組み合わせて発表できる
		5週	ダンス	自分ができる技を、周囲に対して教授することができる
		6週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる自身のスポーツ活動を実施できる
		7週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる自身のスポーツ活動を実施できる
		8週	喫煙と健康	喫煙について正しい知識を習得し、自分の意見を発信できる
	4thQ	9週	バスケットボール（ＣＬＩＬ学習）	バスケットボールの基本用語やルールについて理解している
		10週	バスケットボール（ＣＬＩＬ学習）	ゲーム中にドリブル、パス、シュートなど適切なプレーを選択している
		11週	バスケットボール（ＣＬＩＬ学習）	チームでポジションや戦術について考えて実践している
		12週	バスケットボール（ＣＬＩＬ学習）	チームでポジションや戦術について考えて実践している
		13週	薬物乱用と健康	薬物乱用について正しい知識を習得し、自分の意見を発信できる
		14週	まとめ	2年次の学習内容について理解している
		15週	学年末試験	後期に学習した内容をもとに必要な資料を作成し、30点以上得点することができる
		16週	学年末試験返却・解説	

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（保健や体育理論）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
保健体育Ⅱ	30	50	20	100

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	国語I

科目基礎情報

科目番号	1931001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『新　探求現代文Ｂ』（桐原書店）、『常用漢字　ダブルクリア　三訂版』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。
(2)鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。
(3)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。
(4)現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。
(5)情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文学作品について、鑑賞の方法を理解し、実践できる。また、幅広い文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できない。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。
評価項目2	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、十分に感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができない。
評価項目3	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に積極的に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。
評価項目4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を十分に深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を積極的かつ適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深めたり、その特徴を把握することができない。また、それらの知識を活用して表現することができない。
評価項目5	情報の収集や発想・選択・構成の方法を十分に理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を創意工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を積極的かつ適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解したり、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができない。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文で扱う文章は、随想、評論、小説といったものであるが、それらすべてに「表現」者（作者・著者・小説での語り手）が存在する。そして「表現」者は、「理解」者であるわれわれ読者に向けて、何らかを伝えるべく文章（物語）を書いている（語っている）。よって、われわれ読者には、文章（物語）の読み深めを通して、書き手（語り手）の表現意図を正しく理解することが要求される。それがひいては、われわれ自身が「表現」者として、対他意識を持ってどのように実践していくかを学ぶことにもなる。 随筆や評論、小説といった「表現」に触れ、その内容をより正確に「理解」すること。また、相手により的確に「理解」してもらえる「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を磨き、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。
注意点	(1) 随時、読書タイムや漢字小テストを行う。 (2) 読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 (3) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語事典、漢和辞典を持参することが望ましい。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 (5)後期中間のみ、「定期試験50」＋「小テスト5」＋「レポート・課題20」＋「発表35」でもって評価を行う。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	梶井基次郎「檸檬」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。

		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	今村仁司「市民社会化する家族」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 社会に対しての視野を広げる。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	前期中間試験 試験返却・解説	
	2ndQ	9週	平野啓一郎「身体と表現」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 社会に対しての視野を広げる。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	森鴎外「舞姫」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	調べ学習	(1) 文学作品（小説）について調べることで、作品への理解を深め、資料検索の方法を身につける。
		16週	前期期末試験 試験返却・解説	
後期	3rdQ	1週	調べ学習・発表	(1) 文学作品（小説）について調べることで、作品への理解を深め、資料検索の方法を身につける。 (2) 調べた情報を適切に整理・表現し、効果的に説明することを意識する。 (3) 聴衆として、他者のプレゼンテーションを適切に評価する。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	俳句・短歌	(1) 語句に注目して情景を捉える。 (2) 様々な表現技法について理解する。 (3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。 (4) 作品を通して郷土・地域への眼差しを持つ。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	後期中間試験 試験返却・解説	
	4thQ	9週	東浩紀「ポストモダンと排除社会」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 人間に不可欠な〈言葉〉というものについて理解を深める。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	松浦寿輝「アノマロカリス」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	数学IIIA

科目基礎情報

科目番号	1931002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	前期	週時間数	前期:2
教科書/教材	新微分積分学Ⅰ（大日本図書）、新微分積分Ⅰ問題集（大日本図書）、新線形代数（大日本図書）、新線形代数問題集（大日本図書）		
担当教員	濵田 朋起,川崎 雄貴,石橋 和葵		

到達目標

(1) 微分法の概念を理解し、計算技術を習得する。
(2) 微分法を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形をかくことができる。
(3) 関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。
(4) 行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。
(5) 行列式の定義や性質を理解し、基本的な計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	微分法の高度な計算技術を習得している。	微分法の概念を理解し、計算技術を習得している。	微分法の計算技術を習得していない。
評価項目2	微分法を用いて複雑な関数の増減を調べ、そのグラフの概形をかくことができる。	微分法を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形をかくことができる。	微分を用いて関数の増減を調べることができない。
評価項目3	複雑な関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。	関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。	関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができない。
評価項目4	連立方程式の行列を用いた解法について、計算過程を論理的に説明できる。	行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。	行列の性質や逆行列について理解しておらず、基本的な計算ができない。
評価項目5	行列式の複雑な計算問題を解くことができる。	行列式の定義や性質を理解し、基本的な計算ができる。	行列式の定義を理解できない。または、その基本的な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 更なる計算技術を習得し、専門科目に対応できるよう、発展的な内容を理解することを目標とする。 (3) 2学年に引き続き、微分法の基本的計算方法を習得し、微分法を用いて関数のグラフの概形を調べるなど、様々な活用方法を学習する。 (4) 行列の概念を理解し、基本的な計算技術を習得する。
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	関数の極限	関数の極限値を計算できる。 無限大の概念を理解できる。
		2週	導関数	微分係数・導関数の定義を理解している。 積・商の導関数の公式を使うことができる。
		3週	いろいろな関数の導関数	三角関数の導関数を求めることができる。 指数関数の導関数を求めることができる。
		4週	いろいろな関数の導関数	対数関数の導関数を求めることができる。 合成関数の導関数を求めることができる。
		5週	いろいろな関数の導関数	逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。
		6週	前期中間試験・答案返却・解説	
		7週	関数の変動	基本的な関数の接線の方程式を求めることができる。
		8週	関数の変動	関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。
	2ndQ	9週	関数の変動	関数の最大値・最小値を求めることができる。
		10週	関数の変動	ロピタルの定理を用いて、不定形の極限を求めることができる。 ロピタルの定理を用いて関数の極限を調べ、グラフの概形をかくことができる。
		11週	関数の変動	高次導関数を求めることができる。グラフの凹凸や変曲点を調べ、グラフの概形をかくことができる。
		12週	いろいろな応用	関数の媒介変数表示を理解している。媒介変数表示による関数の導関数を計算し、接線の方程式を求めることができる。

		13週	いろいろな応用	導関数を用いて速度と加速度を求めることができる。 平均値の定理を理解できる。
		14週	行列	逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。 連立方程式への応用ができる。
		15週	行列式	行列式の定義および性質を理解し、行列式の値を求めることができる。 クラメルの公式を用いて連立方程式を解くことができる。
		16週	前期末試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	授業態度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	数学IIIB

科目基礎情報

科目番号	1931003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	後期	週時間数	後期:2
教科書/教材	新微分積分学Ⅰ（大日本図書）、新微分積分Ⅰ問題集（大日本図書）、新線形代数（大日本図書）、新線形代数問題集（大日本図書）		
担当教員	濵田 朋起,川崎 雄貴,石橋 和葵		

到達目標

(1) 不定積分、定積分の意味を理解し、様々な初等関数の積分ができる。
(2) 置換積分、部分積分などを用いて様々な積分の計算ができる。
(3) 図形の面積を積分を用いて計算できる。
(4) 曲線に長さや立体の体積などの幾何的量を積分を用いて計算できる。
(5) 線形変換の概念を理解し、それを用いて様々な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	不定積分、定積分の意味を理解し、公式を用いて複雑な積分計算ができる。	不定積分、定積分の意味を理解し、公式を用いた簡単な積分計算ができる。	不定積分、定積分の意味が理解できない。または、公式を用いた簡単な積分計算ができない。
評価項目2	置換積分、部分積分などを用いて様々な発展的な積分の計算ができる。	置換積分、部分積分などを用いて様々な積分の計算ができる。	置換積分、部分積分などを用いた基礎的な積分の計算ができない。
評価項目3	様々な応用的な場面で、自分で式を立て、積分を用いて様々な図形の面積を計算できる。	図形の面積、体積、曲線の長さを積分を用いて計算できる。	図形の面積、体積、曲線の長さを積分を用いて計算できない。
評価項目4	線形変換の概念を深く理解し、それを用いて様々な難問題を解くことができる。	線形変換の概念を理解し、それを用いて様々な問題を解くことができる。	線形変換の概念が理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 専門科目の「応用数学」に対応できるよう、さらなる発展的な概念である積分学を理解することを目標とする。 (3) 行列の性質への理解を深め、線形変換の概念を理解し、その様々な応用について学習する。
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	積分の基本的計算	不定積分の定義を理解し、基本的な計算ができる。
		2週	積分の基本的計算	定積分の定義を理解し、基本的な計算ができる。
		3週	積分の基本的計算	分数関数・無理関数の不定積分・定積分の計算ができる。
		4週	積分の基本的計算	三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。
		5週	積分の発展的計算	定積分の定義を理解している（区分求積法）。
		6週	積分の発展的計算	置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。
		7週	積分の発展的計算	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。
		10週	積分の応用	いろいろな曲線の長さを求めることができる。
		11週	積分の応用	基本的な立体の体積を求めることができる。
		12週	線形変換	線形変換の定義と基本的性質を理解している。
		13週	線形変換	線形変換による、点や直線の像を求めることができる。
		14週	線形変換	合成変換と逆変換を求めることができる。
		15週	線形変換	平面・空間内の回転を表す線形変換を求めることができる。 回転を表す線形変換を用いて、図形を回転させることができる。
		16週	学年末試験答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	授業態度	発表	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	物理（M3）

科目基礎情報

科目番号	1931004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）／参考図書：「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 （海文堂）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
(2) 運動の法則をもとに、２つの物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来る様になる。
(3) 円運動やばねに吊されたおもりの振動の様に、一定の時間間隔で同じ動きを繰り返す運動について理解出来る様になる。
(4) 万有引力の法則を学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動についても考えられるようになる。
(5) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解ける様になる。
(6) 日常生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などの原理について、何も見ないで説明できる様になる。
(7) 電気の正体やモーターが動く仕組み、交流の電気についての基礎知識を身に付け、問題を解ける様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてついての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目3	等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子、慣性系と非慣性系、遠心力、ループコースター、単振動の力学的エネルギーについての応用的な問題が解ける。	等速円運動の速度、加速度、慣性力と遠心力、単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相、ばね振り子についての基本的な計算ができる。	等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数、遠心力、単振動について説明できない。または、基本的な問題を解く事も出来ない。
評価項目4	ケプラーの法則、万有引力、万有引力による位置エネルギー、宇宙への旅、静止衛星、宇宙速度についての応用的な問題が解ける。	惑星の運動、天動説、地動説、面積速度、焦点、ケプラーの法則、万有引力、万有引力定数についての基本的な問題が解ける。	ケプラーの法則、万有引力について説明できない。または、基本的な問題への適用が出来ない。
評価項目5	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くこともできる。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。
評価項目6	直流回路、クーロンの法則、電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、ジュール熱と抵抗・電圧・電流の関係についての発展的な計算ができる。	電気量、クーロンの法則、点電荷の周りの電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、電力とジュール熱、直流回路についての基本的な計算ができる。	電気量、導体と不導体、静電誘導、クーロンの法則、電流、電気抵抗、電力についての基本的な概念を説明できない。または、基本的な計算ができない。
評価項目7	電流が作る磁界、ローレンツカ、電磁誘導の法則、自己誘導と相互誘導、交流と電磁波についての応用的な問題が解ける。	磁気力と磁界、電流が作る磁界、電流が磁界から受ける力、ローレンツカ、電磁誘導の法則、磁界中を運動する導体の棒についての基本的な計算ができる。	磁気力、磁界、電磁誘導についての基本的な説明や簡単な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) ２物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学ぶ。 (4) 万有引力について学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動について考える。 (5) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。 (6) 私達の生活に身近な静電気・モーター･発電機･電波などについて学ぶ。 (7) 電界と電位、電流と磁界、電磁誘導と電磁波についての式や原理、法則などについて学ぶ。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。

注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題 が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が 解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができ る。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振 動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を 求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができ る。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3)　物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。 4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(4) 滑らかな面への斜め衝突の問題を解くことができる。 4-(5) 衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーの計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(1) 等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数についての問題を解くことができる。
		2週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(2) 等速円運動の速度、加速度の計算ができる。
		3週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(3) 等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子の問題を解くことができる。 6-(4) 遠心力の問題を解くことができる。
		4週	7. 単振動・万有引力	7-(1) 単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相の問題を解くことができる。
		5週	7. 単振動・万有引力	7-(2) 復元力、水平ばね振り子、鉛直ばね振り子、単振り子の問題を解くことができる。
		6週	7. 単振動・万有引力	7-(3) 万有引力、万有引力定数、重力の計算ができる。
		7週	7. 単振動・万有引力	7-(4) 万有引力による位置エネルギー、静止衛星の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	9. 電界と電位	9-(1) 静電気について説明できる。 9-(2) 導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。 9-(3) 電場・電位について説明できる。

		10週	9. 電界と電位	9-(4) クーロンの法則が説明できる。 9-(5) クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。
		11週	10. 電流	10-(1) オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。 10-(2) 抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。
		12週	10. 電流	10-(3) ジュール熱や電力を求めることができる。
		13週	11.電流と磁界	11-(1) 磁気力と磁界について説明できる。 11-(2) 電流が作る磁界について説明でき、計算できる。
		14週	11.電流と磁界 12. 電磁誘導と電磁波	11-(3) 電流が磁界から受ける力について説明できる。 12-(1) 電磁誘導の現象と法則について、説明できる。
		15週	12. 電磁誘導と電磁波	12-(2) 直流や交流について説明できる。 12-(3) 電磁波とその利用について説明できる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	物理（C3）

科目基礎情報

科目番号	1931005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）／参考図書：「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 （海文堂）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
(2) 運動の法則をもとに、２つの物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来る様になる。
(3) 円運動やばねに吊されたおもりの振動の様に、一定の時間間隔で同じ動きを繰り返す運動について理解出来る様になる。
(4) 万有引力の法則を学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動についても考えられるようになる。
(5) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解ける様になる。
(6) 日常生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などの原理について、何も見ないで説明できる様になる。
(7) 電気の正体やモーターが動く仕組み、交流の電気についての基礎知識を身に付け、問題を解ける様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてついての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目3	等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子、慣性系と非慣性系、遠心力、ループコースター、単振動の力学的エネルギーについての応用的な問題が解ける。	等速円運動の速度、加速度、慣性力と遠心力、単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相、ばね振り子についての基本的な計算ができる。	等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数、遠心力、単振動について説明できない。または、基本的な問題を解く事も出来ない。
評価項目4	ケプラーの法則、万有引力、万有引力による位置エネルギー、宇宙への旅、静止衛星、宇宙速度についての応用的な問題が解ける。	惑星の運動、天動説、地動説、面積速度、焦点、ケプラーの法則、万有引力、万有引力定数についての基本的な問題が解ける。	ケプラーの法則、万有引力について説明できない。または、基本的な問題への適用が出来ない。
評価項目5	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くこともできる。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。
評価項目6	直流回路、クーロンの法則、電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、ジュール熱と抵抗・電圧・電流の関係についての発展的な計算ができる。	電気量、クーロンの法則、点電荷の周りの電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、電力とジュール熱、直流回路についての基本的な計算ができる。	電気量、導体と不導体、静電誘導、クーロンの法則、電流、電気抵抗、電力についての基本的な概念を説明できない。または、基本的な計算ができない。
評価項目7	電流が作る磁界、ローレンツカ、電磁誘導の法則、自己誘導と相互誘導、交流と電磁波についての応用的な問題が解ける。	磁気力と磁界、電流が作る磁界、電流が磁界から受ける力、ローレンツカ、電磁誘導の法則、磁界中を運動する導体の棒についての基本的な計算ができる。	磁気力、磁界、電磁誘導についての基本的な説明や簡単な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) ２物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学ぶ。 (4) 万有引力について学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動について考える。 (5) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。 (6) 私達の生活に身近な静電気・モーター･発電機･電波などについて学ぶ。 (7) 電界と電位、電流と磁界、電磁誘導と電磁波についての式や原理、法則などについて学ぶ。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。

注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題 が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が 解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができ る。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振 動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を 求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができ る。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3)　物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。 4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(4) 滑らかな面への斜め衝突の問題を解くことができる。 4-(5) 衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーの計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(1) 等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数についての問題を解くことができる。
		2週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(2) 等速円運動の速度、加速度の計算ができる。
		3週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(3) 等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子の問題を解くことができる。 6-(4) 遠心力の問題を解くことができる。
		4週	7. 単振動・万有引力	7-(1) 単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相の問題を解くことができる。
		5週	7. 単振動・万有引力	7-(2) 復元力、水平ばね振り子、鉛直ばね振り子、単振り子の問題を解くことができる。
		6週	7. 単振動・万有引力	7-(3) 万有引力、万有引力定数、重力の計算ができる。
		7週	7. 単振動・万有引力	7-(4) 万有引力による位置エネルギー、静止衛星の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	9. 電界と電位	9-(1) 静電気について説明できる。 9-(2) 導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。 9-(3) 電場・電位について説明できる。

		10週	9. 電界と電位	9-(4) クーロンの法則が説明できる。 9-(5) クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。
		11週	10. 電流	10-(1) オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。 10-(2) 抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。
		12週	10. 電流	10-(3) ジュール熱や電力を求めることができる。
		13週	11.電流と磁界	11-(1) 磁気力と磁界について説明できる。 11-(2) 電流が作る磁界について説明でき、計算できる。
		14週	11.電流と磁界 12. 電磁誘導と電磁波	11-(3) 電流が磁界から受ける力について説明できる。 12-(1) 電磁誘導の現象と法則について、説明できる。
		15週	12. 電磁誘導と電磁波	12-(2) 直流や交流について説明できる。 12-(3) 電磁波とその利用について説明できる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	物理（D3）

科目基礎情報

科目番号	1931006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）／参考図書：「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 （海文堂）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
(2) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について、具体的な計算ができる様になる。
(3) 運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来る様になる。
(4) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解ける様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてついての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目3	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くこともできる。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) ２物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題 が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が 解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができ る。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振 動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を 求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができ る。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。

		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3)　物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	理科総合（M3）

科目基礎情報

科目番号	1931007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	生物基礎（啓林館）		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

生物
(1) 遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。
地学
(2) 地球の外観と内部の活動を理解し、その保全について考えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 遺伝	遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解し、標準的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解していない。
評価項目2 地学：地球の概観、内部とその活動	地球の概観、内部とその活動について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	地学、生物：地球の構造と様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	1.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNAについて説明できる。
		2週	1.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報の複製と分配について説明できる。
		3週	1.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とタンパク質の合成について説明できる。
		4週	遺伝子とそのはたらきについての演習	
		5週	2.地球の概観、内部とその活動	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。 地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。
		6週	2.地球の概観、内部とその活動	陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。 地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。
		7週	地球の概観と内部構造の演習	
		8週	後期中間試験　答案返却・解説	
	4thQ	9週	2.地球の概観、内部とその活動	地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。 地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。
		10週	2.地球の概観、内部とその活動	地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。 マグマの生成と火山活動を説明で゛きる。
		11週	2.地球の概観、内部とその活動	マグマの生成と火山活動を説明できる。 地震の発生と断層運動を理解できる。
		12週	2.地球の概観、内部とその活動	地震の発生と断層運動を理解できる。 火山活動と火成岩の形成について理解できる。
		13週	2.地球の概観、内部とその活動	火山活動と火成岩の形成について理解できる。 大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。 大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。
		14週	2.地球の概観、内部とその活動	大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。 大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。 海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。
		15週	地球の概観、内部とその活動の演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題・レポート	態度	合計
総合評価割合	70	25	5	100

基礎的能力	70	25	5	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	理科総合（D3）

科目基礎情報

科目番号	1931008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	生物基礎（啓林館）		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

生物
(1) 生物の体内環境の維持について理解し、発展的な問題を解くことができる。
(2) 遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。
地学
(3) 地球の外観と内部の活動を理解し、発展的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 生物の体内環境の維持	生物の体内環境の維持について理解し、発展的な問題を解くことができる。	生物の体内環境の維持について理解し、標準的な計算ができる。	生物の体内環境の維持について理解していない。
評価項目2 遺伝	遺伝子とそのはたらきについて理解し、発展的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解し、標準的な問題を解くことができる。	遺伝子とそのはたらきについて理解していない。
評価項目3 地学：地球の概観、内部とその活動	地球の概観、内部とその活動について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	地学、生物：地球の構造と様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 授業態度も評価対象とします。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.生物の体内環境の維持	体内環境について説明できる。
		2週	1.生物の体内環境の維持	体内環境について説明できる。
		3週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。
		4週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。
		5週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。
		6週	体内環境と体内環境を維持するしくみついての演習	
		7週	前期中間試験 答案返却・解説	
		8週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
	2ndQ	9週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		10週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		11週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		12週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		13週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		14週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		15週	免疫のしくみについての演習	
		16週	前期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	2.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNAについて説明できる。
		2週	2.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報の複製と分配について説明できる。
		3週	2.遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とタンパク質の合成について説明できる。
		4週	遺伝子とそのはたらきについての演習	
		5週	3.地球の概観、内部とその活動	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。 地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。
		6週	3.地球の概観、内部とその活動	陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。 地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。
		7週	地球の概観についての演習	
		8週	後期中間試験　答案返却・解説	

	4thQ	9週	3.地球の概観、内部とその活動	地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。 地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。
		10週	3.地球の概観、内部とその活動	地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。 マグマの生成と火山活動を説明できる。
		11週	3.地球の概観、内部とその活動	マグマの生成と火山活動を説明できる。 地震の発生と断層運動を理解できる。
		12週	3.地球の概観、内部とその活動	地震の発生と断層運動を理解できる。 火山活動と火成岩の形成について理解できる。
		13週	3.地球の概観、内部とその活動	火山活動と火成岩の形成について理解できる。 大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。 大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。
		14週	3.地球の概観、内部とその活動	大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。 大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。 海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。
		15週	地球の概観、内部とその活動の演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題・レポート	態度	合計
総合評価割合	70	25	5	100
基礎的能力	70	25	5	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	総合英語III

科目基礎情報

科目番号	1931009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	数研出版　Revised BIG DIPPER English Communication III		
担当教員	上杉 鉛一,池田 幸恵		

到達目標

（1）単語や語句の文中での「働き」を理解する
（2）語や語句の「働き」に基づいて、文の組み立てを理解する
（3）日本語の語順と異なる英語の文型をしっかりと認識し、文章を正確に読み取る
（4）複数の文を組み合わせた文章の作成を目指す

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ある程度の分量の英文を読み、その構造・構文を正しくつかんで日本語に変換できる	ある程度の英文を読んで概要や要点をつかむことができる。	主語・目的語等の働きが理解できない
評価項目2	主要4品詞の区別と文中での働きが関連付けられる。	主要4品詞（動詞・名詞・形容詞・副詞）の区別ができる	主要品詞の区別ができない
評価項目3	文型の組み立ての違いを正確に理解し、内容を読み取ることができる。	文型の違いによる分の組み立てが区別できる	文の組み立てが区別できない
評価項目4	複数の文を組み合わせて、自身の考えを述べる文章が作成できる	例文をもとにした単独の文が作文できる	例文をもとにした単独の文が作文できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	英文を読み解く技術（リーディング・スキル）を身につけていきましょう。具体的には、文章をより正確に読み解くために、語彙・表現、文法を学ぶと同時に、文章を読む前の内容の予測や、複数の文章の組み合わせ・構造の仕組み、論理的な話題の展開にも着目し、短文のみではなく、長文の英語を読み解く技術を身につけることを目指します。その後リーディングの力をリスニングに生かせるようにする。
授業の進め方・方法	（1）予習では全体を読み取り、語彙・熟語などの確認してください。 （2） Unit 1では、 英文を読み解くために必要な技術（リーディング・スキル）に重点を置きます。日本語に訳すのではなく「何が書いてあるのか」、「筆者の言いたいことは何か」を的確に読み取るコツを学ぶようにしましょう。 （3）各Lessonでは英文を読み、その内容をつかみ取る訓練をします。
注意点	・小テストや課題、発表などへの工夫や取り組みも評価の対象です。 ・授業には、必ず教科書・ノートを持参し、必要なことをノートに書いてください。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。 ・前期は週に2時間（１コマ)、後期は週に４時間(2コマ)で授業を行います

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス, Lesson 1 The history of Ekiben ①②	本授業の到達目標と評価方法を知る、主語と述語動詞に注意し、まとまりで読むことを学習する 言い換え表現を見つける
		2週	Lesson1 ③、Lesson 2 Three tips for maintaining a Conversation ①	パラグラフの構成（話題文）に関する知識を活用して読解することができる
		3週	Lesson 2 ②③	パラグラフの構成（支持文、結論）、列挙に関する知識を活用して読解することができる
		4週	Lesson 3 Do You Judge People by Their Blood Types? ①②	文章の構成（序論、本論１）、例示に関する知識を活用して読解することができる
		5週	Lesson 3 ③④	文章の構成（本論２, 結論）に関する知識を活用して読解することができる
		6週	Lesson 4 My Opinion of Zoos ①②	討論（賛成・反対）に関する知識を活用して読解することができる
		7週	Lesson 4 ③、これまでの復習	討論(賛成・反対）に関する知識を活用して読解することができる 総復習する
		8週	前期中間試験	これまで学習した範囲から出題
	2ndQ	9週	Lesson 5 The 55-year Race ①②③	ディスコースマーカー（時系列１）に関する知識を活用して読解することができる
		10週	Lesson 5④⑤	ディスコースマーカー（時系列２）に関する知識を活用して読解することができる
		11週	Lesson 6 After the Flowers ①②③	ディスコースマーカー（因果関係）に関する知識を活用して読解することができる
		12週	Lesson 6 ④⑤	ディスコースマーカー（因果関係）に関する知識を活用して読解することができる

		13週	Lesson 7 Online Word-of-Mouth ①②	意見陳述に関する知識を活用して読解することができる
		14週	Lesson 7 ③④	意見陳述に関する知識を活用して読解することができる
		15週	Lesson 8 Kintsugi まとめ	対比に関する知識を活用して読解することができる Lesson 5 ～8のまとめ
		16週	前期末試験	これまで学習した範囲から出題
後期	3rdQ	1週	Lesson 9 Alfred Nobel: A Person of Peace ①②③ Lesson 10 Art on Display ①②	譲歩に関する知識を活用して読解することができる リーフレットを読む
		2週	Lesson 11 Keys to Winning ①②③④⑤ Lesson 12 She Sella Seashells by the Seashore ①②③	リーディングスキルを活用して読解することができる スポーツ選手の心理 化石の発見
		3週	Lesson 13 A New Orchestra and a New Harmony ①②③④⑤ Lesson 14 Swimwear for Speed ①②③④⑤	リーディングスキルを活用して読解することができる ゴミで作った楽器(新聞記事) 競泳水着の進化
		4週	Lesson 15 The Immortal Jellyfish ①②③④ Lesson 16 Antarctica by Cruise SHip ①②③	リーディングスキルを活用して読解することができる クラゲ（不死の生物） 南極クルーズ
		5週	Lesson 17 The Show That Grows ①②③ Lesson 17 ④⑤⑥	リーディングスキルを活用して読解することができる アフリカの子どもたち 靴を送る
		6週	Lesson 18　Let's Try English Presentation ① ②	発表・説明
		7週	Lesson 12 ①② ③④⑤	リーディングスキルを活用して読解することができる 地下鉄道と黒人奴隷 ハリエット・タブマンについて
		8週	Lesson 19 Bottled Water? No Water? ①②③ ④⑤６	リーディングスキルを活用して読解することができる ペットボトルの水 水道水
	4thQ	9週	後期中間試験	これまで学習した範囲から出題
		10週	Lesson 20 Endangered Language ①②③④ ⑤⑥⑦	リーディングスキルを活用して読解することができる 絶滅危惧言語 解決策の提案
		11週	Lesson 21 Left in Space ①②③ ④⑤⑥	リーディングスキルを活用して読解することができる 宇宙ゴミ 方法解決
		12週	Lesson 22 ①②③④ ⑤⑥⑦⑧	時系列に関する知識を活用して読解することができる 要約①
		13週	Lesson 23 ①②③④⑤⑥⑦	代名詞に関する知識を活用して読解することができる 要約②
		14週	Lesson 24 ①②③④⑤⑥⑦⑧	省略に関する知識を活用して読解することができる 要約③
		15週	Lesson 25 ①②③④⑤⑥	対比に関する知識を活用して読解することができる 討論
		16週	学年末試験	これまで学習した範囲から出題

評価割合

	試験	発表	相互評価	小テスト	提出物	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	20	0	100
基礎的能力	70	0	0	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語表現III

科目基礎情報

科目番号	1931010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	三省堂　My Way Logic and Expression		
担当教員	下田 旭美		

到達目標

(1) キー・センテンスはすべて暗唱し書くことができる。
(2) キー・センテンスを応用して簡単な英文を作り出す。
(3) 英会話に必要な英文法を十分に理解する。"

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 基本例文の習得	基本的な文をすべて暗唱し書くことができる。	基本的な文をだいたい暗唱し書くことができる。	"基本的な文を十分に暗唱できず書くこともできない。"
評価項目2 体系的な文法事項の理解	基本文に含まれる英文法を説明できる	基本文に含まれる英文法事項をある程度説明できる	基本文に含まれる文法事項の理解が十分でない。
評価項目3 文法知識を応用した作文力	基本文を使い、文法に則り英作文ができる。	基本文を用い、簡単な英作文ができる。	基本文を用いて、英作文が十分にできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	国際社会で活躍する為のコミュニケーション基礎力を培うために、文法項目を総復習しながら英語の文を作ることによって能動的な発話のできる土台を築くことを目指す。
授業の進め方・方法	(1) 基本文を暗唱しようとする努力をする態度を養う。 (2) 基本文に含まれる文法事項を理解し、説明しようとする態度を養う。 (3) 毎回、小テストを実施するので、準備は必ず行う。 (4) 分からない事項をノートで確認できるように、ノート整理を必ずすると。
注意点	基本文の暗唱と文法事項の説明最低限の学習内容であるため、これを確認するための毎時間の小テストの準備を確実に行うこと。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves	現在形（be 動詞）
		2週	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves	現在形（一般動詞）
		3週	Lesson 2 School Life	過去形（be動詞、一般動詞）
		4週	Lesson 2 School Life	過去形（現在進行形、過去進行形）
		5週	Special Activities	あなたの学校や街を紹介しよう
		6週	Lesson 3 The Arts	未来表現
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説 Lesson 3 The Arts	基本時制のまとめ

	2ndQ	9週	Special Activities	どんな顔ができるのかな
		10週	Lesson 4 Food & Culture	現在完了形①
		11週	Lesson 4 Food & Culture	現在完了形②、現在完了進行形
		12週	Special Activities	料理の作り方を説明しよう
		13週	Lesson 5 Welcome to our Town	助動詞
		14週	Lesson 5 Welcome to our Town	受動態
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 Traveling Abroad	不定詞①
		2週	Lesson 6 Traveling Abroad	不定詞②
		3週	Lesson 7 Sports	動名詞
		4週	Lesson 7 Sports	分詞の後置修飾、分詞構文
		5週	Special Activities	私はだれでしょう？
		6週	Lesson 8 Everyday Technology	比較①
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説 Lesson 8 Everyday Technology	比較②
	4thQ	9週	Special Activities	賛成意見や反対意見を言ってみよう
		10週	Lesson 9 Take Care	関係代名詞①
		11週	Lesson 9 Take Care	関係代名詞②
		12週	Lesson 10 SDGs - Take Action!	関係副詞
		13週	Lesson 10 SDGs - Take Action!	仮定法
		14週	Special Activities	友だちに感謝のメッセージを贈ろう-Words of Thanks-
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度・ノート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	体育・スポーツⅠ

科目基礎情報

科目番号	1931011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	柴山 慧		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 陸上運動では自分の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることの楽しさを体験する。
3 身体つくりでは、自身の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できる。
4 球技ではゲームを自分たちで運営できるようにする。
5 ウォータースポーツでは4泳法を習得し個人メドレーを泳げるようにする。
6 健康スポーツ島実習においては地域や社会で関連する課題の解決に向けて行動できるようにする。
7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	自身や他者の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることの楽しさを体験する。	自分の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることの楽しさを体験する。	自分の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることができない。
評価項目3	自身や他者、社会の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できる。	自身の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できる。	自身の健康的な生活や体力の維持、向上について考えて活動できない。
評価項目4	球技ではゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	球技ではゲームや練習では、運営に協力的にかかわることができる。	球技でゲームや練習では、運営に協力的にかかわることができない。
評価項目5	4泳法に必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	4泳法に必要な技能を習得している。	4泳法に必要な技能を習得していない。
評価項目6	率先して地域や社会の課題を解決できるように考えるだけでなく、周囲と一緒に考えながら取り組むことができる。	地域や社会の課題を解決できるように考えることができる。	地域や社会の課題を解決できるように考えない。
評価項目7	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、健康に関する基本的な知識を理解したうえで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。←減点の対象 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、健スポ島実習1回目ワークショップ「地域課題への気づき」	本授業の内容を理解し、地域や社会の課題について気づくことができる
		2週	バレーボール（CLIL学習）	バレーボールの基本用語やルールについて理解している
		3週	バレーボール（CLIL学習）	ゲーム中にレシーブ、トス、アタックなど適切なプレーを選択している
		4週	バレーボール（CLIL学習）	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
		5週	バレーボール（CLIL学習）	ＣＬＩＬ学習の考え方に基づいた活動を実施できている
		6週	身体つくり、体力テスト屋内種目	健康的な生活や体力の維持、向上につながる活動を実施している
		7週	身体つくり、体力テスト屋外種目	健康的な生活や体力の維持、向上につながる活動を実施している

		8週	クラスマッチの練習	クラスマッチにつながる活動を実施できている
	2ndQ	9週	ウォータースポーツ	4泳法について効率的なフォームを習得し、個人メドレーを泳ぐことができる
		10週	ウォータースポーツ	自分に合ったウォータースポーツ、マリンスポーツについて考えることができる
		11週	ウォータースポーツ	
		12週	ウォータースポーツ	
		13週	ウォータースポーツ	
		14週	健スポ島実習2回目	地域の保健や健康に関する活動を通して、社会や自分たちの課題解決について考えることができる
		15週	前期のまとめ	前期の学習内容について理解している
		16週		
後期	3rdQ	1週	陸上競技	陸上運動の基本用語やルールについて理解している
		2週	陸上競技	記録を向上させるために自信やグループで考えて実行している
		3週	陸上競技	
		4週	陸上競技	
		5週	陸上競技	
		6週	クラスマッチの練習（屋内）	クラスマッチに必要な練習計画を立てて実行できる
		7週	クラスマッチの練習（屋外）	クラスマッチに必要な練習計画を立てて実行できる
		8週	健康スポーツ科学学習①	健康やスポーツに関する学習内容について理解している
	4thQ	9週	卓球	卓球の基本用語やルールについて理解している
		10週	卓球	適切なフォームでラリーを続けることができる
		11週	卓球	ゲーム中にスマッシュを打つことができる
		12週	卓球	
		13週	卓球	
		14週	健康スポーツ科学学習②	健康やスポーツに関する学習内容について理解している
		15週	後期のまとめ	
		16週		

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（保健や体育理論）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
体育・スポーツⅠ	30	50	20	100

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	国語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1941001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。
(2)他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。
(3)相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。
(4)社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを最大限に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに大いに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができない。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができない。
評価項目2	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に大いに資することができる。	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができない。
評価項目3	相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションを効果的にとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を十二分に習得できる。	相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができない。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できない。
評価項目4	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を十二分に理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして効果的に実践できる。	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	前半は（1）日本語表現演習 と称し、日本語（特に科学・技術文章）の基本ルールを再確認する。これは、その後に続く、コミュニケーション基礎力の養成を目的とする（2）スピーチ・プレゼン、（3）文章作成 をより効果的な内容にする狙いがある。（2）スピーチ・プレゼン は、原稿の書き方・話し方・聞き方・質問の仕方等を学習する。（3）文章作成 を行う際は、文章の「型」や段落構成を、特に意識する。
授業の進め方・方法	（1）日本語表現問題演習は、プリントを使った問題演習形式である。事前に問題を解いておき、授業でその解説をする。 （2）スピーチ・プレゼンは、「おすすめの本」という題目で、一人ずつクラス全員の前で発表する（時間は3～5分）。 （3）文章作成は、課題ごとに文章を作成し、提出する。 （4）課題提出は期限厳守、フロッピーやＵＳＢメモリで提出する場合がある。発表や提出に際して、下書き原稿を一旦提出し、添削を受ける機会もある。
注意点	（1）課題提出は期限厳守、フロッピーやＵＳＢメモリで提出する場合がある。発表や提出に際して、下書き原稿を一旦提出し、添削を受ける機会もある。 （2）プリントをファイルするものを各自準備すること。 （3）電子辞書もしくは国語辞書を持参することが望ましい。 （4）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

前期	1stQ	1週	1．日本語表現演習	就職活動に際して、自分の考えを、的確に相手に伝えることは大切である。また、就職してからも、（科学・技術）文章が書けないかぎり、円滑に仕事を進めることは難しい。「句読点のルール」など基本的な事柄から再確認し、添削や演習を繰り返して文章能力の向上をはかる。 1-(1)「誤字の削除」 1-(2)「送りがなの付け方」 1-(3)「同訓・同音語句の選択」 1-(4)「形式名詞の識別」 1-(5)「補助動詞の識別」 1-(6)「禁則処理」 1-(7)「中点」 1-(8)「括弧・コロン」 1-(9)「接続詞」 1-(10)「接文語句」 1-(11)「カタカナ単語の表記」 1-(12)「長音符号」 1-(13)「副詞の表記」 1-(14)「当て字の表記」 1-(15)「敬語」
		2週	同上	同上
		3週	2．スピーチ・プレゼン	これまでの読書タイムで読んだ本の中で、最も印象的な１冊を選び、クラス全員の前で紹介することができる。その際、言葉遣いや発表態度にも気を配る。また、聞く側も、的確に発表を分析、評価することができるようになる。
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	3．文章作成	文章構成を意識しながら、様々なパターンの文章を書くことができる。 3-(1) 手紙・はがき・メール文書 3-(2) 小論文 3-(3) 自己推薦（ＰＲ）文・志望動機（理由）書
	2ndQ	9週	同上	同上
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	前期末試験 答案返却・解説	
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	社会特論（M）

科目基礎情報

科目番号	1941002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

（1）現代社会の政治的諸課題を理解できる
（2）現代社会の経済的諸課題を理解できる
（3）新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる
（4）時事問題について自分の言葉で説明できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代社会の政治的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の政治的諸課題を理解している	現代社会の政治的諸課題を理解できない
評価項目2	現代社会の経済的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の経済的諸課題を理解できる	現代社会の経済的諸課題を理解できない
評価項目3	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取り、その背景についても考察できる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができない
	時事問題について自分の意見を含めて説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	（1）現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解を深める （2）現代社会を理解する上で必要な情報を読み取る能力を身につける
授業の進め方・方法	自主制作教材を用い講義を行う
注意点	新聞やニュースなどで、時事問題に関する情報を収集しておくこと

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 現代の資本主義経済	1-(1) アダム・スミスと資本主義
		2週	1. 現代の資本主義経済	1-(2) カール・マルクスと社会主義
		3週	1. 現代の資本主義経済	1-(3) 修正資本主義と現代社会

		4週	2.　現代経済のしくみ	2-(1)経済主体と経済循環 2-(2)経済のしくみと企業
		5週	2.　現代経済のしくみ	2-(3)市場経済の機能と限界
		6週	2.　現代経済のしくみ	2-(4)国民所得と経済成長
		7週	2.　現代経済のしくみ	2-(5)金融のしくみと機能
		8週	2.　現代経済のしくみ	2-(6)財政のしくみと機能
	2ndQ	9週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(1)GHQ統治下の日本
		10週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(2)高度経済成長期
		11週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(3)二つのショック
		12週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(4)産業構造変化
		13週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(5)バブル経済とその後
		14週	4.　現代社会と日本経済の課題	4-(1)日本農業と食料問題
		15週	4.　現代社会と日本経済の課題	4-(2)社会保障と福祉
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	レポート・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	社会特論（C・D)

科目基礎情報

科目番号	1941003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

（1）現代社会の政治的諸課題を理解できる
（2）現代社会の経済的諸課題を理解できる
（3）新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる
（4）時事問題について自分の言葉で説明できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代社会の政治的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の政治的諸課題を理解している	現代社会の政治的諸課題を理解できない
評価項目2	現代社会の経済的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の経済的諸課題を理解できる	現代社会の経済的諸課題を理解できない
評価項目3	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取り、その背景についても考察できる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができない
	時事問題について自分の意見を含めて説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	（1）現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解を深める （2）現代社会を理解する上で必要な情報を読み取る能力を身につける
授業の進め方・方法	自主制作教材を用い講義を行う
注意点	新聞やニュースなどで、時事問題に関する情報を収集しておくこと

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	1. 現代の資本主義経済	1-(1)資本主義体制の成立
		2週	1. 現代の資本主義経済	1-(2)資本主義経済の発展と変容
		3週	1. 現代の資本主義経済	1-(3)社会主義の変遷
		4週	2. 現代経済のしくみ	2-(1)経済主体と経済循環 2-(2)経済のしくみと企業
		5週	2. 現代経済のしくみ	2-(3)市場経済の機能と限界
		6週	2. 現代経済のしくみ	2-(4)国民所得と経済成長

		7週	2.　現代経済のしくみ	2-(5)金融のしくみと機能
		8週	2.　現代経済のしくみ	2-(6)財政のしくみと機能
	4thQ	9週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(1)GHQ統治下の日本
		10週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(2)高度経済成長期
		11週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(3)二つのショック
		12週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(4)産業構造変化
		13週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(5)バブル経済とその後
		14週	4.　現代社会と日本経済の課題	4-(1)日本農業と食料問題
		15週	4.　現代社会と日本経済の課題	4-(1)社会保障と福祉
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	レポート・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	発展英語Ⅰ（M）

科目基礎情報

科目番号	1941004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	松柏社「Quick Exercises for the TOEIC Test 400」Matthew Wilson他		
担当教員	下田 旭美,池田 幸恵		

到達目標

1. TOEIC受験の出題形式に慣れ、各問題形式の傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につける
2. 授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現、文法の構造、英文読解を理解し、運用できるようになる
3. 授業を通して、スコアアップに必要な自学自習方法の習得も目指す

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
TOEICに頻出する語彙・表現を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語法・語彙に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語法・語彙に関する質問に60%以上答えられない。
TOEICに頻出する文法の構造を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に60%以上答えられない。
TOEICに頻出する英文を読んで内容を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に60%以上答えられない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科目は、2名の教員でリスニングとリーディングパートに分けて進めていきます。まずは、TOEIC受験の出題形式に慣れ、各パートの傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につけるため、TOEICに頻出する語彙・表現、文法の構造、英文読解の3つを柱とした基礎力をつけていきましょう。また、スコアアップに必要な自学自習方法も意識しながら、日々の授業を積み重ねていきましょう。 ※この科目では、海外での実務経験がある教員が、その経験を活かして実践的な英語教育を行う。
授業の進め方・方法	基本的に、教科書の模試問題に沿って授業を進めます。 模試問題の実践と解説を通して、TOIECの試験の出題形式に慣れるとともに、各パートの問題形式の傾向も把握していきます。
注意点	・学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠です。 ・教科書などを活用して主体的に学習するよう心がけてください。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Scene 1 リスニングパート問題演習 Scene 1 リーディングパート問題演習	シラバス、評価方法について説明 語彙・表現・文法の知識を活用してScene 1の問題を適切に解くことができる
		2週	Scene 2 リスニングパート問題演習 Scene 2 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 2の問題を適切に解くことができる
		3週	Scene 3 リスニングパート問題演習 Scene 3 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 3の問題を適切に解くことができる
		4週	Scene 4 リスニングパート問題演習 Scene 4 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 4の問題を適切に解くことができる
		5週	前期中間試験	これまで学習した範囲から出題
		6週	試験返却・説明 Scene 5 リスニングパート問題演習 Scene 5 リーディングパート問題演習	試験の解説 語彙・表現・文法の知識を活用してScene 5の問題を適切に解くことができる
		7週	Scene 6 リスニングパート問題演習 Scene 6 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 6の問題を適切に解くことができる
		8週	Scene 7 リスニングパート問題演習 Scene 7 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 7の問題を適切に解くことができる
	2ndQ	9週	Scene 8 リスニングパート問題演習 Scene 8 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 8の問題を適切に解くことができる
		10週	Scene 9 リスニングパート問題演習 Scene 9 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 9の問題を適切に解くことができる

		11週	Scene 10 リスニングパート問題演習 Scene 10 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 10の問題を適切に解くことができる
		12週	Scene 11 リスニングパート問題演習 Scene 11 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 11の問題を適切に解くことができる
		13週	Scene 12 リスニングパート問題演習 Scene 12 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 12の問題を適切に解くことができる
		14週	Scene 13 リスニングパート問題演習 Scene 13 リーディングパート問題演習	語彙・表現・文法の知識を活用してScene 13の問題を適切に解くことができる
		15週	前期末試験	これまで学習した範囲から出題
		16週	試験返却・説明	試験の解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	体育・スポーツⅡ（M）

科目基礎情報

科目番号	1941007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	橋本 真		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 球技では準備運動や練習なども含めて自分たちでスポーツの楽しみ方を実践できる。
4 バドミントンでは基本的な技能を身につける。
5 グラウンドゴルフでは、その意義や必要性を理解し大崎上島でのスポーツについて学習する。
6 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用することができる。
7 アダプテッドスポーツ実習では、その意義や必要性を理解したうえで活動する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	球技のゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	球技のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができる。	球技のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができない。
評価項目4	卓球に必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	卓球に必要な技能を習得している。	卓球に必要な技能を習得していない。
評価項目5	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得しているだけでなく、大崎上島のスポーツについて考えることができる。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得している。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得していない。
評価項目6	率先してCLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができない。
評価項目7	アダプテッドスポーツの意義や必要性を理解したうえで率先して活動している。	アダプテッドスポーツの意義や必要性を理解したうえで活動している。	アダプテッドスポーツの意義や必要性を理解したうえで活動できていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は決定する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、選択スポーツ（第1体育館）	自分に合ったスポーツを選択して活動している
		2週	選択スポーツ（第2体育館）	自分に合ったスポーツを選択して活動している
		3週	選択スポーツ（グラウンド）	自分に合ったスポーツを選択して活動している
		4週	グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフの基本用語やルールについて理解している
		5週	グラウンドゴルフ	地域のスポーツについて考え、自分の生涯スポーツに生かそうとしている
		6週	体力テスト屋内種目、身体つくり	体力テストの意義や必要性について理解している
		7週	体力テスト屋外種目、身体つくり	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		8週	バスケットボール（CLIL学習）	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
	2ndQ	9週	バスケットボール（CLIL学習）	バドミントンの基本用語やルールについて理解している
		10週	バスケットボール（CLIL学習）	ゲーム中にスマッシュ、ハイクリア、ヘアピンなど適切なプレーを選択している

		11週	バスケットボール（CLIL学習）	ＣＬＩＬ学習の内容について適切に理解して活動している
		12週	バスケットボール（CLIL学習）	
		13週	アダプテッドスポーツ実習	アダプテッドスポーツの考え方を理解して活動している
		14週	卓球	
		15週	卓球	
		16週		

評価割合

	遠隔	対面	合計
総合評価割合	80	20	100
体育・スポーツⅡ	80	20	100

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	体育・スポーツⅡ（C・D）

科目基礎情報

科目番号	1941008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	橋本 真		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 球技では準備運動や練習なども含めて自分たちでスポーツの楽しみ方を実践できる。
4 硬式テニスでは基本的な技能を身につける。
5 グラウンドゴルフでは、その意義や必要性を理解し大崎上島でのスポーツについて学習する。
6 スポーツ実験実習では、保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができる。
7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができる。	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができない。
評価項目4	硬式テニスに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	硬式テニスに必要な技能を習得している。	硬式テニスに必要な技能を習得していない。
評価項目5	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得しているだけでなく、大崎上島のスポーツについて考えることができる。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得している。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得していない。
評価項目6	スポーツに関する事象の調査や研究について、周囲と協力して実験計画を立てて実習することができる。	スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができる。	スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができない。
評価項目7	率先してCLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等のスポーツができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだつくり運動	からだつくり運動の意義や必要性について理解している
		2週	グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフの基本用語やルールについて理解している
		3週	グラウンドゴルフ	地域のスポーツについて考え、自分の生涯スポーツに生かそうとしている
		4週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している
		5週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		6週	卓球（CLIL学習）	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
		7週	卓球（CLIL学習）	バドミントンの基本用語やルールについて理解している
		8週	卓球（CLIL学習）	ゲーム中にスマッシュ、ハイクリア、ヘアピンなど適切なプレーを選択している

	2ndQ	9週	卓球（CLIL学習）	
		10週	クラスマッチの練習（屋内）	
		11週	クラスマッチの練習（屋外）	
		12週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について考えて、計画を立てている。
		13週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について実験を実施している。
		14週	スポーツ実験実習	
		15週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について報告書をまとめて、発表ができている。
		16週		
後期	3rdQ	1週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスの基本用語やルールについて理解している
		2週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している
		3週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している
		4週	硬式テニス＆選択スポーツ	自分たちで適切なスポーツを選択して実行できる
		5週	クラスマッチの練習（屋内）	
		6週	クラスマッチの練習（屋外）	
		7週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲームを自分たちで運営できる
		8週	硬式テニス＆選択スポーツ	ペアでラリーを20回行うことができる
	4thQ	9週	硬式テニス＆選択スポーツ	
		10週	硬式テニス＆選択スポーツ	
		11週	バスケットボール	ゲーム中に必要な個人技能や集団技能を習得している
		12週	バスケットボール	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
		13週	バスケットボール	チームで準備運動、練習などを協力して考えて実行している
		14週	バスケットボール	
		15週	バスケットボール	
		16週		

評価割合

	遠隔	対面	合計
総合評価割合	75	25	100
体育	75	25	100

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	社会特論（M・C）

科目基礎情報

科目番号	0050	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	授業で配布するプリント		
担当教員	小河 浩		

到達目標

(1)グローバル化された現代における時事問題など一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。
(2)科学技術の諸問題や思想などについて一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。
(3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。
(4)日本の抱える社会や国際的諸問題について一般教養程度の内容が理解できて、社会活動に応用できる。
(5)現代における地域の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	グローバル化された現代における時事問題などに関する理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目2	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	科学技術の諸問題や思想などに関する理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目3	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関する理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目4	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できて、社会活動に応用できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できて、社会活動に関心が持てる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関する理解できず、社会活動に応用できない。
評価項目5	地域の抱える諸問題について内容が理解できて、社会活動に応用できる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な理解できて、社会活動に関心が持てる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な内容が理解できず、社会活動に応用できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)グローバル化された現代における時事問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (2)科学技術の諸問題や思想などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて理解できて、社会活動に応用できる。 (4)日本の抱える社会や国際的諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。 (5)地域の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。
授業の進め方・方法	社会特論は、これから就職活動を控え、また社会人となっていくために必要な現代社会を理解するために時事問題を、講義と演習形式で学習していくものである。グローバル化された世界情勢の動きや、行き過ぎたグローバル化や企業の問題、それに伴う格差や資源、テロの問題など、学習する内容は多岐にわたる。これらの内容を講義と共に、新聞や書籍記事などを用いて学生個々人が読解し、分析することによって理解をふかめるものである。
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	グローバル化された現代における科学技術、思想などの諸問題	ガイダンス 現代の科学技術の諸問題ついて理解できて、社会活動に応用できる。
		2週	グローバル化された現代における科学技術、思想などの諸問題	グローバル化された時代の思想について理解できて、社会活動に応用できる。
		3週	グローバル化された現代における科学技術、思想などの諸問題	世界のトップクラスの大企業について理解できて、社会活動に応用できる。
		4週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	多国籍自動車企業の展開について理解できて、社会活動に応用できる。
		5週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	多国籍メディア企業の展開について理解できて、社会活動に応用できる。
		6週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	多国籍食品企業の展開について理解できて、社会活動に応用できる。
		7週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	石油など地球エネルギー資源の問題について理解できて、社会活動に応用できる。
		8週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	食糧などの地球資源の問題について理解できて、社会活動に応用できる。

	2ndQ	9週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	テロ問題や右傾化する世界情勢などから、反グローバル化などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		10週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	ソ連崩壊以後のロシア情勢について理解できて、社会活動に応用できる。
		11週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	企業のM&A、労働災害などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		12週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	日本の高度経済成長から、現代における格差の諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。
		13週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	大量定年時代を迎えた日本経済の行方のついて理解できて、社会活動に応用できる。
		14週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	ホワイトカラーの国際移動などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		15週	多国籍企業の展開、資源、地域紛争、反グローバル化に関する諸問題	地域紛争や、行き過ぎたグローバル化に対する反グローバル化などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		16週	前期末試験	前期末試験
後期	3rdQ	1週	日本や地域の抱える諸問題	答案返却と解説 少子高齢化など日本社会の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。
		2週	日本や地域の抱える諸問題	少子高齢化など日本社会の抱える諸問題について理解できて、社会活動に応用できる。
		3週	日本や地域の抱える諸問題	衰退する地方と地域社会について理解できて、社会活動に応用できる。
		4週	日本や地域の抱える諸問題	衰退する地方と地域社会について理解できて、社会活動に応用できる。
		5週	日本や地域の抱える諸問題	日本企業と労働問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		6週	日本や地域の抱える諸問題	日本企業と労働問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		7週	日本や地域の抱える諸問題	現政権下で進行中の諸問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		8週	日本や地域の抱える諸問題	現政権下で進行中の諸問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
	4thQ	9週	日本や地域の抱える諸問題	現政権下で進行中の諸問題などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		10週	日本や地域の抱える諸問題	日本の直面する地域間の格差問題について理解できて、社会活動に応用できる。
		11週	日本や地域の抱える諸問題	経団連の政策などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		12週	日本や地域の抱える諸問題	経団連の政策などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		13週	日本や地域の抱える諸問題	日米関係などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		14週	日本や地域の抱える諸問題	日米関係などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		15週	日本や地域の抱える諸問題	日米関係などについて理解できて、社会活動に応用できる。
		16週	学年末試験	学年末試験 答案返却と解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題取り組み	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	文学と思想

科目基礎情報

科目番号	1951001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。
(2)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりして、生きるヒントを見出すことができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	我が国や中国の文学作品を通して、当時の人々の物の見方・感じ方・考え方（思想）を理解し、多様な価値観や、人間的な幅の広さを意識させる。そして、社会に出てから特に必要になってくると思われる、強い精神力の持ち方、人間力・仕事力・組織力・経営力・交渉力の高め方、社会人やリーダーとしての在り方（規範意識）などを確認する。
授業の進め方・方法	（１）授業の進行状況に応じて、ＤＶＤやビデオを鑑賞する。 （２）
注意点	（１）プリントをファイルするものを各自準備すること。 （２）電子辞書もしくは古語辞典・漢和辞典を持参することが望ましい。 （３）『徒然草』や『論語』には注釈書が豊富に存在するので、事前・事後に解釈を確認しておくと、理解が深まると思われる。 （４）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	１．徒然草と無常観	1-(1) 無常観を根底にした美意識 に関して理解できる。（137段） 1-(2) 無常観とその浸透 に関して理解できる。（195,196,40-42段） 1-(3) 無常観とその形成要素（生命無常・人心無常・存在無常） に関して理解できる。（25-32段） 1-(4) DVD鑑賞（徒然草・アニメ・中世文学等）
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	２．孔子の思想	2-(1) 訓読・句法・故事成語 を確認できる。 2-(2) 孔子の生涯、『論語』の概要 を理解できる。（DVD鑑賞） 2-(3) 「君子」や「仁」を理解することができる。 2-(4) 『論語』を用いてプレゼンテーションを行うことができる。「理想的な社会人像」に関して探究する。
		8週	同上	同上
	4thQ	9週	同上	同上
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	３．禅宗の思想	3-(1) スティーブ・ジョブズにおける禅宗の影響を確認できる。 3-(2) 祖師の逸話、悟りの境地、公案 を理解できる。 3-(3) 『中華若木詩抄』に見られる禅的発想を確認できる。 3-(4) 一休宗純や公案「婆子焼庵」 を知ることができる。（アニメ一休さん）
		14週	同上	同上
		15週	学年末試験 答案返却・解説	

		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	社会特論（D）

科目基礎情報

科目番号	1951002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	授業で配布するプリント類		
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

(1)グローバル化された現代における時事問題など一般教養程度の内容が理解できる。
(2)科学技術の諸問題や思想などについて一般教養程度の内容が理解できる。
(3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて一般教養程度の内容が理解できる。
(4)日本の抱える社会や国際的諸問題について一般教養程度の内容が理解できる。
(5)現代における地域の抱える諸問題について理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関する理解できていない。
評価項目2	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できる。	科学技術の諸問題や思想などに関する理解できていない。
評価項目3	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関する理解できていない。
評価項目4	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関する理解できていない。
評価項目5	地域の抱える諸問題について内容が理解できて、内容も説明できる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な理解ができる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な内容が理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)グローバル化された現代における時事問題などについて理解できる。 (2)科学技術の諸問題や思想などについて理解できる。 (3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて理解できる。 (4)日本の抱える社会や国際的諸問題について理解できる。 (5)地域の抱える諸問題について理解できる。
授業の進め方・方法	社会特論は、これから就職活動を控え、また社会人となっていくために必要な現代社会を理解するために時事問題を、講義（ニュース検定）と演習形式で学習していくものである。グローバル化された世界情勢の動きや、行き過ぎたグローバル化や企業の問題、それに伴う格差や資源、テロの問題など、学習する内容は多岐にわたる。これらの内容を講義と共に、新聞や書籍記事などを用いて学生個々人が読解し、分析することによって理解をふかめるものである。
注意点	(1)ニュース検定（毎日新聞社）を利用して補助プリントを利用して授業を展開していく。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス　世界の現状	ガイダンス終了後、ウクライナ問題を理解する。
		2週	超加速経済アフリカ	将来の日本社会はリープフロッグ現象のアフリカで見られるお話から今後にの世界について理解する。
		3週	日本国憲法について（１）	憲法改正過程　改憲勢力と護憲勢力
		4週	日本国憲法について（２）	9条について 9条以外のテーマについて
		5週	日本の外交について（１）	日本と韓国の関係について理解する 日本とアメリカの関係について理解する
		6週	日本の外交について（２）	今後の日本とアメリカの関係について理解する 日本とロシアの関係について理解する
		7週	日本の外交について（３）	日本と中国の関係について理解する
		8週	人口減少社会について（１）	地方自治の基本について理解する ふるさと納税と地方の抱える問題点
	2ndQ	9週	人口減少社会について（２）	少子高齢化と国債残高について理解する
		10週	日本の貿易について（１）	保護貿易と自由貿易
		11週	日本の貿易について（２）	円高と円安について理解する 自由貿易体制（ＴＰＰはどうなるのか）
		12週	これからのエネルギー政策について	エネルギーの変遷と今後のエネルギー

		13週	社会保障制度について	人口減少と社会保障にういて理解する
		14週	働き方改革について	働き方改革が目指すもの
		15週	まとめ 全体の補習日	まとめ
		16週	前期末試験	前期末試験
後期	3rdQ	1週	戦後の国際関係（１）	ＷＷⅠ以前の国際関係（１）
		2週	戦後の国際関係（２）	ＷＷⅠ以前の国際関係（２）
		3週	戦後の国際関係（３）	ＷＷⅠ中の国際関係
		4週	戦後の国際関係（４）	ヒットラーの登場
		5週	戦後の国際関係（５）	ＷＷⅡの始まり
		6週	戦後の国際関係（６）	ポストＷＷⅡ
		7週	戦後の国際関係（７）	勝者の世界分割
		8週	戦後の国際関係（８）	冷戦と各抑止力
	4thQ	9週	戦後の国際関係（９）	ベトナム戦争
		10週	戦後の国際関係（10）	冷戦終結
		11週	戦後の国際関係（11）	戦後の日本
		12週	戦後の国際関係（12）	戦後の日本
		13週	戦後の国際関係（13）	戦後の日本
		14週	戦後の国際関係（14）	戦後の日本
		15週	戦後の国際経済（15）	戦後の日本
		16週	学年末試験	学年末試験 答案返却と解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	20	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	発展英語Ⅱ（C）

科目基礎情報

科目番号	1951004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	教員の作成した教材		
担当教員	下田 旭美		

到達目標

(1)文の構造を理解し、各語の品詞を特定できる
(2)初見の英文を辞書を利用して、意味を理解できる
(3)教科書付属のCDを聞いて、その内容を理解する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1（文構造の理解）	名詞句とSVO前置詞句、副詞が理解できる	SVO前置詞句、副詞が理解できる	SVO前置詞句が理解できない
評価項目2 (辞書)	品詞を特定し、辞書を引き、複数の意味から特定できる	品詞をある程度特定し、助書を引く	品詞の特定が出来ずに辞書を引く
評価項目3 （聞き取り）	TOEICのPartIIの問題で疑問詞、主語を特定し、解答できる	同問題で疑問詞を特定し、解答できる	疑問詞、主語を特定できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)3年生まで学習した語句・文法事項の復習をし、それらの理解を深めるとともに、実際に使用できるようにする (2)既習文法事項の理解を深める (3)辞書を利用して、初見の英文の意味を理解できるようになる (4)「読む」「書く」を中心として4技能の力を伸ばす (5)辞書の使い方と、TOEIC対策の授業を中心とする" (6)後期には海外旅行で使える表現を学習する。ペアワークも行う。
授業の進め方・方法	TOEICのPartIIの問題を解答するともに、疑問詞、主語を理解し、質問の意味が分かるようになる 後期には海外旅行で使える表現を，ペワークを中心に行う。
注意点	(1) 今後学ぶ英語や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・小テスト・練習課題などを活用して主体的に学習すること。 (3) 予習・復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 (5)後期は会話が中心となるので、どんどん発表すること

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 文構造と前置詞 疑問詞を聞き取る	SVO構造を理解し、前置詞を指摘できる 疑問詞(who, what)を聞き取ることが出来る
		2週	2. 名詞句(1) 疑問詞を聞き取る	名詞句の構造のうち、形容詞と名詞を理解する 疑問詞(when, where)を聞き取ることが出来る
		3週	2. 名詞句(2) 疑問詞を聞き取る	冠詞と名詞を理解する 疑問詞(how)を聞き取ることが出来る
		4週	2. 名詞句(3) 疑問詞を聞き取る	冠詞相当語句と形容詞、名詞を理解する 疑問詞(how ～)を聞き取ることが出来る
		5週	2. 名詞句(4) 疑問詞を聞き取る	冠詞相当語句と副詞、形容詞、名詞を理解する Do you know 疑問詞を聞き取ることが出来る
		6週	2. 名詞句(5) 疑問詞を聞き取る	これまでの総復習
		7週	3. 動詞(1) 主語を聞き取る	自動詞と他動詞を理解できる I, Youを聞き取ることが出来る
		8週	3. 動詞(2) 主語を聞き取る	時制を理解できる he, sheを聞き取ることが出来る
	2ndQ	9週	3. 動詞(3) 主語を聞き取る	能動態と受動態を理解できる it,they, 代名詞を聞き取ることが出来る。
		10週	3. 動詞(3) 主語を聞き取る	現在分詞、過去分詞の使い方を理解できる Yes-no疑問の主語を聞き取ることが出来る
		11週	3. 動詞(4) 主語を聞き取る	現在分詞、過去分詞の使い方を理解できる 疑問詞の後の主語を聞き取ることが出来る
		12週	4. 副詞(1) 主語を聞き取る	副詞の形と位置を理解できる 個人名から男女を区別し、主語を聞き取ることが出来る
		13週	4. 副詞(2) 主語を聞き取る	名詞句内の副詞を特定できる 疑問詞、主語を聞き取れる
		14週	4. 副詞(3) 主語を聞き取る	文中の副詞を特定し、意味を調べることが出来る 疑問詞、主語を聞き取れる
		15週	期末試験	
		16週	解答と説明	解答と説明をし、学習内容を確認する

後期	3rdQ	1週	1. 飛行機での会話	席の交換、アテンダントとの会話などができる
		2週	2. 空港での会話	イミグレーション、完全での会話が出来る
		3週	3. ホテルでの会話(1)	チェックイン、ベルトの会話が出来る
		4週	4. ホテルでの会話(2)	器具の故障を伝えることが出来る
		5週	5. レストランでの会話(1)	注文ができる
		6週	6. レストランでの会話(2)	ファストフード店で注文ができる
		7週	7. ショッピングでの会話(1)	欲しいものを伝えることができる
		8週	8. ショッピングでの会話(2)	返品などができる
	4thQ	9週	9. ショッピングでの会話(3)	値下げ交渉が出来る
		10週	10. 観光地での会話	写真を撮って貰うことが出来る
		11週	11. 道を尋ねる	行きたい場所への交通手段を教えて貰うことが出来る
		12週	12. 実践発表(1)	これまで練習してきたペアで会話を行う
		13週	13. 実践発表(1)	これまで練習してきたペアで会話を行う
		14週	14. 実践発表(1)	これまで練習してきたペアで会話を行う
		15週	学年末試験	
		16週	解答と説明	解答と説明をし、学習内容を確認する

評価割合

	試験	発表	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	10	10	10	20	0	100
基礎的能力	50	10	10	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	発展英語Ⅱ（D）

科目基礎情報

科目番号	1951005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	松柏社「Quick Exercises for the TOEIC Test 400」Matthew Wilson他、アルク「即興スピーキング！」本多敏幸		
担当教員	池田 幸恵		

到達目標

1. TOEIC受験の出題形式に慣れ、各問題形式の傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につける
2. 授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現、文法の構造、英文読解を理解し、運用できるようになる
3. 英語で質問したり、答えたりするSpoken Interaction = やりとりする力を身につける

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
TOEICに頻出する文法の構造を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に60%以上答えられない。
TOEICに頻出する英文を読んで内容を理解する。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に60%以上答えられない。
自分の意見や情報の伝達を簡単な英語で述べる。	自分の意見や情報の伝達を簡単な英語で80%以上述べられる。	自分の意見や情報の伝達を簡単な英語で70%以上述べられる。	自分の意見や情報の伝達を簡単な英語で60%以上述べられない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科目は、TOEIC学習をメインとした前半とスピーキング活動をメインとした後半の二部構成で進められます。前半では、TOEIC受験の出題形式に慣れ、各パートの傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につけるため、TOEICに頻出する語彙・表現、文法の構造、英文読解の3つを柱とした基礎力をつけていきましょう。後半では、これまで学んできた英語の知識を活用して使いこなすため、身近なことから段階を追って徐々に英語を話す力を伸ばしていきましょう。
授業の進め方・方法	前半はTOEIC模試問題の実践と解説を通して、TOIECの試験の出題形式に慣れるとともに、各パートの問題形式の傾向も把握していきます。後半では、表現の確認や音読による個人練習と、相手の質問に答えたり、相手へ質問したりするペア練習によって、英語でやりとりすることに慣れるようにします。
注意点	・学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠です。 ・教科書などを活用して主体的に学習するよう心がけてください。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Scene 1 Part 5~6 Unit 1-1 自己紹介をしよう①	シラバス、評価方法について理解できる Scene 1 Part 5~6を解くことができる 英語で自己紹介することができる
		2週	Scene 1 Part 7 Unit 1-1 自己紹介をしよう②	Scene 1 Part 7の問題を解くことができる 英語で自己紹介することができる
		3週	Scene 2 Part 5~6 Unit 1-2 2文以上で答えよう①	Scene 2 Part 5~6の問題を解くことができる 2文以上で答えることができる
		4週	Scene 2 Part 7 Unit 1-2 2文以上で答えよう②	Scene 2 Part 7の問題を解くことができる 2文以上で答えることができる
		5週	Scene 3 Part 5~6 Unit 1-3 話を聞いて質問しよう①	Scene 3 Part 5~6の問題を解くことができる 話を聞いて質問することができる
		6週	Scene 3 Part 7 Unit 1-3 話を聞いて質問しよう②	Scene 3 Part 7の問題を解くことができる 話を聞いて質問することができる
		7週	Scene 4 Part 5~6 Unit 1-4 ペアで雑談しよう①	Scene 4 Part 5~6の問題を解くことができる ペアで雑談できる
		8週	Scene 4 Part 7 Unit 1-4 ペアで雑談しよう②	Scene 4 Part 7の問題を解くことができる ペアで雑談できる
	2ndQ	9週	Scene 5 Part 5~6 Unit 2-1 学校や町の紹介をしよう①	Scene 5 Part 5~6の問題を解くことができる 学校や町の紹介ができる
		10週	Scene 5 Part 7 Unit 2-1 学校や町の紹介をしよう②	Scene 5 Part 7の問題を解くことができる 学校や町の紹介ができる
		11週	Scene 6 Part 5~6 Unit 2-2 イラストを描写しよう①	Scene 6 Part 5~6の問題を解くことができる イラストを描写できる
		12週	Scene 6 Part 7 Unit 2-2 イラストを描写しよう②	Scene 6 Part 7の問題を解くことができる イラストを描写できる

		13週	Scene 7 Part 5~6 Unit 2-3 聞いたことを伝えよう①	Scene 7 Part 5~6の問題を解くことができる 聞いたことを伝えられる
		14週	スピーキング・テスト	これまで学んだスピーキング活動を実践することができる
		15週	前期末試験	これまで学習した範囲から出題
		16週	試験返却・説明	これまで習った重要事項の総復習
後期	3rdQ	1週	Scene 7 Part 7 Unit 2-3 聞いたことを伝えよう②	Scene 7 Part 7の問題を解くことができる 聞いたことを伝えられる
		2週	Scene 8 Part 5~6 Unit 2-4 語句の説明をしよう①	Scene 8 Part 5~6の問題を解くことができる 語句の説明ができる
		3週	Scene 8 Part 7 Unit 2-4 語句の説明をしよう②	Scene 8 Part 7の問題を解くことができる 語句の説明ができる
		4週	Scene 9 Part 5~6 Unit 3-1 即興でスピーチをしよう①	Scene 9 Part 5~6の問題を解くことができる 即興でスピーチができる
		5週	Scene 9 Part 7 Unit 3-1 即興でスピーチをしよう②	Scene 9 Part 7の問題を解くことができる 即興でスピーチができる
		6週	Scene 10 Part 5~6 Unit 3-2 いろいろな話題で話そう①	Scene 10 Part 5~6の問題を解くことができる いろいろな話題で話すことができる
		7週	Scene 10 Part 7 Unit 3-2 いろいろな話題で話そう②	Scene 10 Part 7の問題を解くことができる いろいろな話題で話すことができる
		8週	Scene 11 Part 5~6 Unit 3-3 質問に2文で答えよう①	Scene 11 Part 5~6の問題を解くことができる 質問に2文で答えられる
	4thQ	9週	Scene 11 Part 7 Unit 3-3 質問に2文で答えよう②	Scene 11 Part 7の問題を解くことができる 質問に2文で答えられる
		10週	Scene 12 Part 5~6 Unit 3-4 クラスのみんなと雑談しよう①	Scene 12 Part 5~6の問題を解くことができる クラスのみんなと雑談できる
		11週	Scene 12 Part 7 Unit 3-4 クラスのみんなと雑談しよう②	Scene 12 Part 7の問題を解くことができる クラスのみんなと雑談できる
		12週	Scene 13 Part 5~6 Unit 4-1 意見を添えて答えよう①	Scene 13 Part 5~6の問題を解くことができる 意見を添えて答えられる
		13週	Scene 13 Part 7 Unit 4-1 意見を添えて答えよう②	Scene 13 Part 7の問題を解くことができる 意見を添えて答えられる
		14週	スピーキング・テスト	これまで学んだスピーキング活動を実践することができる
		15週	学年末試験	これまで学習した範囲から出題
		16週	試験返却・解説	これまで習った重要事項の総復習

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	提出物	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	体育・スポーツⅢ（M）

科目基礎情報

科目番号	1951006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	橋本 真,柴山 慧		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 硬式テニスでは基本的な技能を身につける。
4 クリエイティブスポーツ実習では自主的に自分たちでスポーツを楽しむことができる。
5 健康スポーツカルチャー実習では、健康やスポーツにかかわるさまざまな分野について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	硬式テニスに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	硬式テニスに必要な技能を習得している。	硬式テニスに必要な技能を習得していない。
評価項目4	主体的に率先して授業の準備を計画し、状況を観察しながら実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができない。
評価項目5	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、周囲と一緒に積極的に学習できる。	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、積極的に学習できる。	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、積極的に学習できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等の運動ができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。←減点の対象 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだつくり運動	からだつくり運動の意義や必要性について理解している
		2週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスにおいて基本的なルール、用語について理解している
		3週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している
		4週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している
		5週	硬式テニス＆選択スポーツ	ペアでラリーが20回できるようになる
		6週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している
		7週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		8週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している
	2ndQ	9週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲームを自分たちで運営できる。
		10週	硬式テニス＆選択スポーツ	
		11週	硬式テニス＆選択スポーツ	
		12週	健康スポーツカルチャー実習	スポーツにかかわる様々な分野について学習できる。
		13週	健康スポーツカルチャー実習	
		14週	健康スポーツカルチャー実習	
		15週	健康スポーツカルチャー実習	

		16週		
後期	3rdQ	1週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		2週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		3週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツを自分たちで楽しむために必要な技能を習得している
		4週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		5週	クラスマッチの練習（屋内）	
		6週	クラスマッチの練習（屋外）	
		7週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		8週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
	4thQ	9週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		10週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		11週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		12週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		13週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		14週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		15週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		16週		

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（授業の運営や体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（計画書の提出やレポート課題）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
体育	30	50	20	100

広島商船高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	体育・スポーツⅢ（C・D)

科目基礎情報

科目番号	1951007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	柴山 慧,橋本 真		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 クリエイティブスポーツ実習では自主的に自分たちでスポーツを楽しむことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	主体的に率先して授業の準備を計画し、状況を観察しながら実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※遠隔授業と対面授業の実施数に基づいて、その評価割合は最終決定する。下記に示されている評価割合は暫定的なものであり、詳細は1月に入ってから授業で説明する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等の運動ができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。 (4) 実技テストやレポート、提出物などの授業に関する成果物が全て完了することで成績評価をする。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	
		2週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		3週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		4週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		5週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		6週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		7週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		8週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
	4thQ	9週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		10週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		11週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		12週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		13週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		14週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		15週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		16週		

評価割合

	出席点（日ごろの体調管理）	技能点（授業の運営や体育実技や関心・意欲態度）	知識・理解（計画書の提出やレポート課題）	合計
総合評価割合	30	50	20	100
体育・スポーツⅡ	30	50	20	100